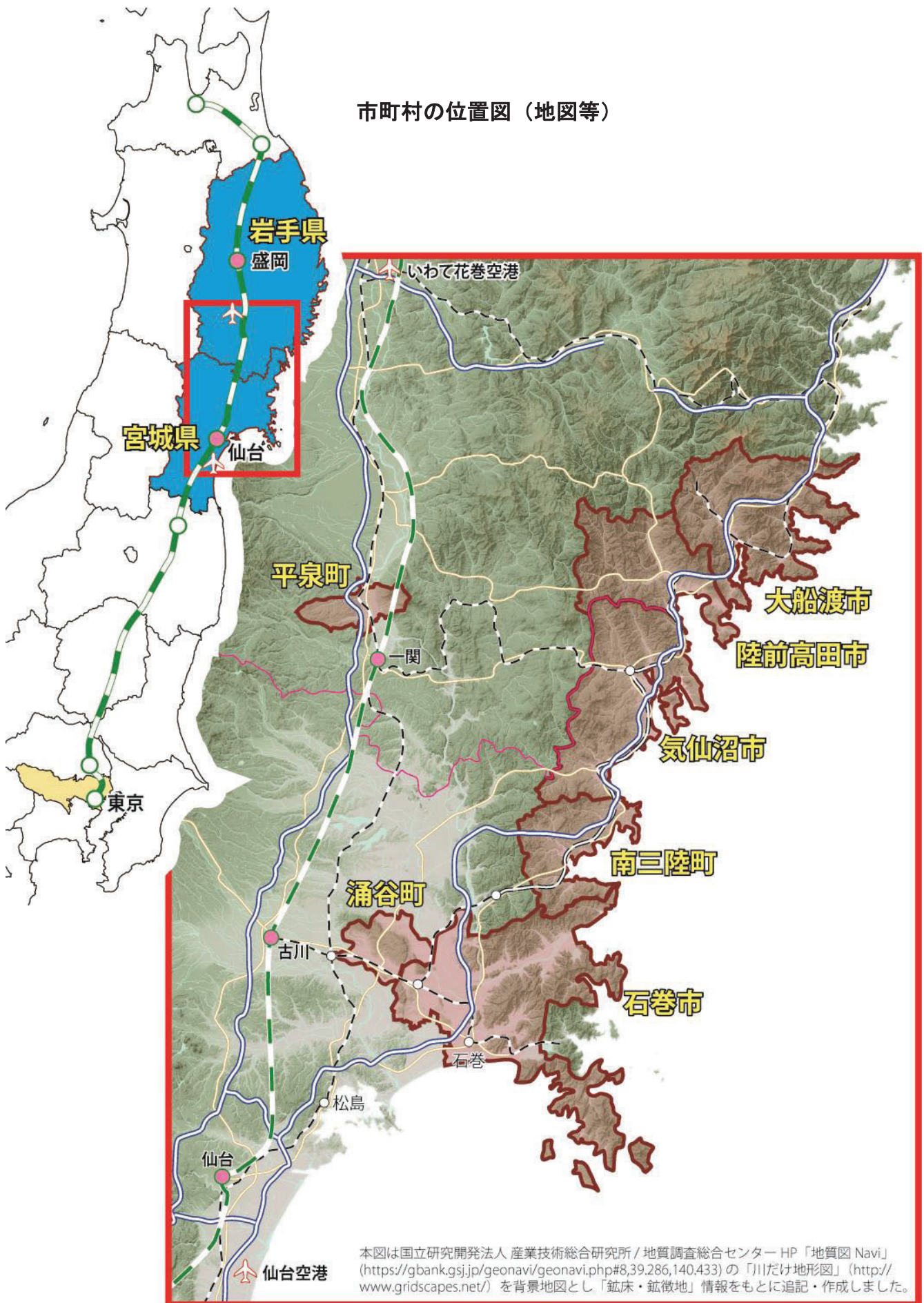


① 申請者	岩手県(平泉町・陸前高田市・大船渡市) ◎宮城県(気仙沼市・南三陸町・涌谷町・石巻市)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E	
③ タイトル				
(ふりがな)	みちのくごーるどろまん -おうごんのくにじばんぐ、さんきんはじまりのちをたどる-			
<h2>みちのくGOLD浪漫</h2> <p>-黄金の国ジパング、産金はじめりの地をたどる-</p>				
④ ストーリーの概要(200字程度)				
<p>日本で初めて“金”が産出されたのは奈良時代の^{むつのくに}陸奥国。現在の岩手県や宮城県を含み「みちのく」とも呼ばれるこの地が生んだ“金”は富の象徴のみならず、奈良・東大寺の大仏や平泉・中尊寺^{こんじきどう}金色堂を彩り、祈りの対象として人々の心に光を灯し続けてきました。</p>				
<p>私たちは、時代とともに幾重にも結び付き、独自の文化や信仰、産業へと昇華した“金”と人々の^{えにし}縁を“みちのくGOLD”と名付け、価値や魅力の掘り起しを始めました。日々の生活や風土に溶け込んだ“みちのくGOLD”との出会いは、悠久の時を経ても色褪せることのない浪漫に満ち溢れています。</p>				
				
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名				
電 話		FAX		
E-mail				
住 所				

※昨年度申請実績

平成30年度申請タイトル
みちのくGOLDろまんツーリズム = 黄金の国ジパング、産金はじめりの地を巡る =
変更内容
<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルやストーリー展開を、「ツーリズム」ではなく、砂金採りから金山開発、そして金鉱山の隆盛へと移り変わる日本産金史を背景に、1,250年にわたる“金”との関わりが「みちのく」の風土と結びつき、魅力溢れる現在の地域形成がなされた形に変更した。 ・ストーリーの内容を、砂金採り、金山、金鉱山の稼働について特徴づける構成文化財を中心に位置付けすると共に、生産地や消費地の中に残された“金”に対する人々の思い・価値観など、“金”と人々との縁によって生み出された文化について描き出す内容に変更した。 ・活性化計画の内容を、旅人の受け皿となり得る観光案内所や宿泊施設、飲食店、土産物店、公共交通機関などに「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムにかかわる協議会参画による連携を働きかけ、回遊性の向上と経済活動の活性化を促進し、域内への観光客入込数の増加へとつなげるよう変更した。特に、内陸部と沿岸部の周遊に必要な二次交通(地域交通・レンタカー・レンタサイクル等)を配備するためのネットワークを早急に構築について事業案として追加した。

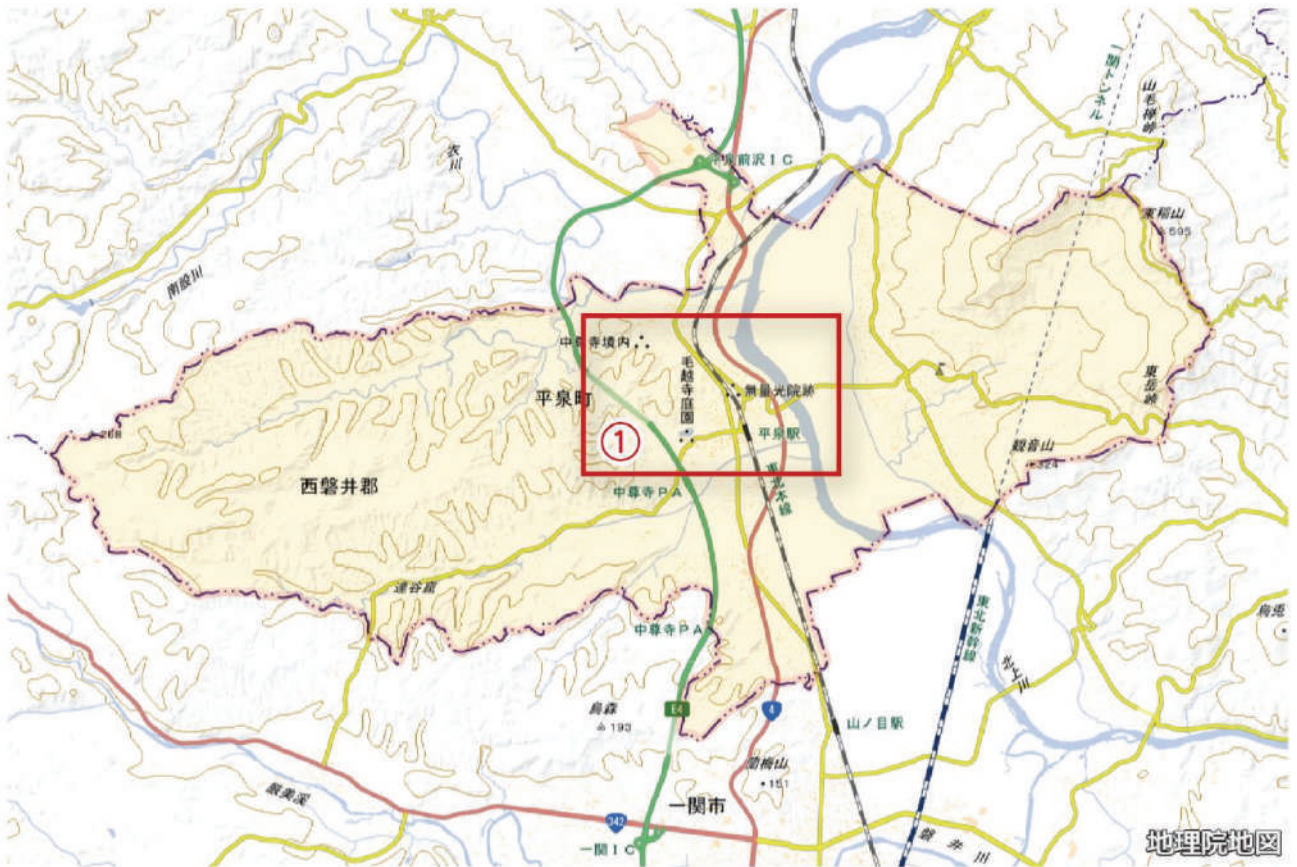
市町村の位置図 (地図等)



本図は国立研究開発法人 産業技術総合研究所 / 地質調査総合センター HP「地質図 Navi」
(<https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php#8,39.286,140.433>) の「川だけ地形図」(<http://www.gridscapes.net/>) を背景地図とし「鉱床・鉱徴地」情報をもとに追記・作成しました。

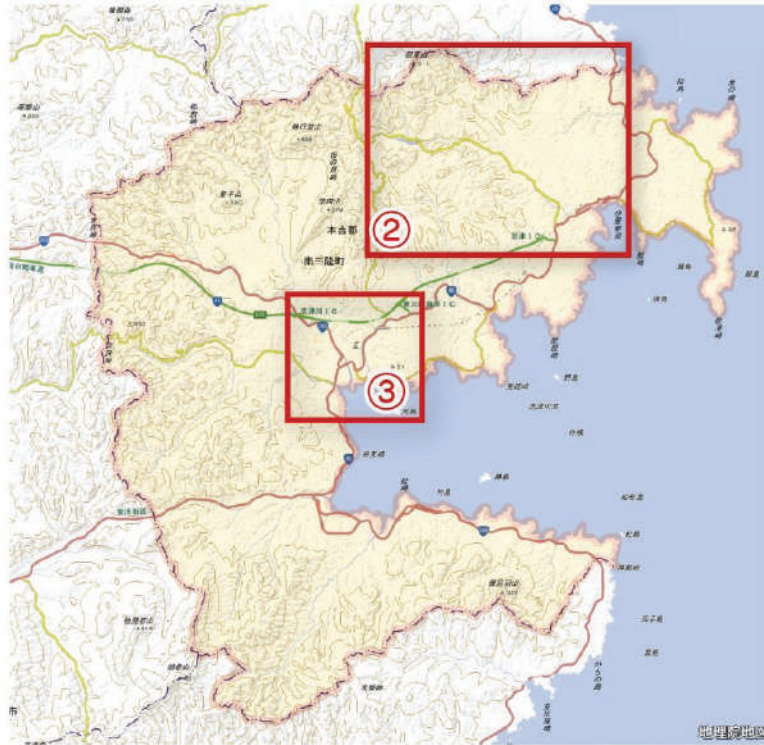
構成文化財の位置図 (岩手県平泉町)

地理院地図を利用し作成



構成文化財の位置図 (宮城県南三陸町)

地理院地図を利用し作成



構成文化財の位置図 (宮城県南三陸町)

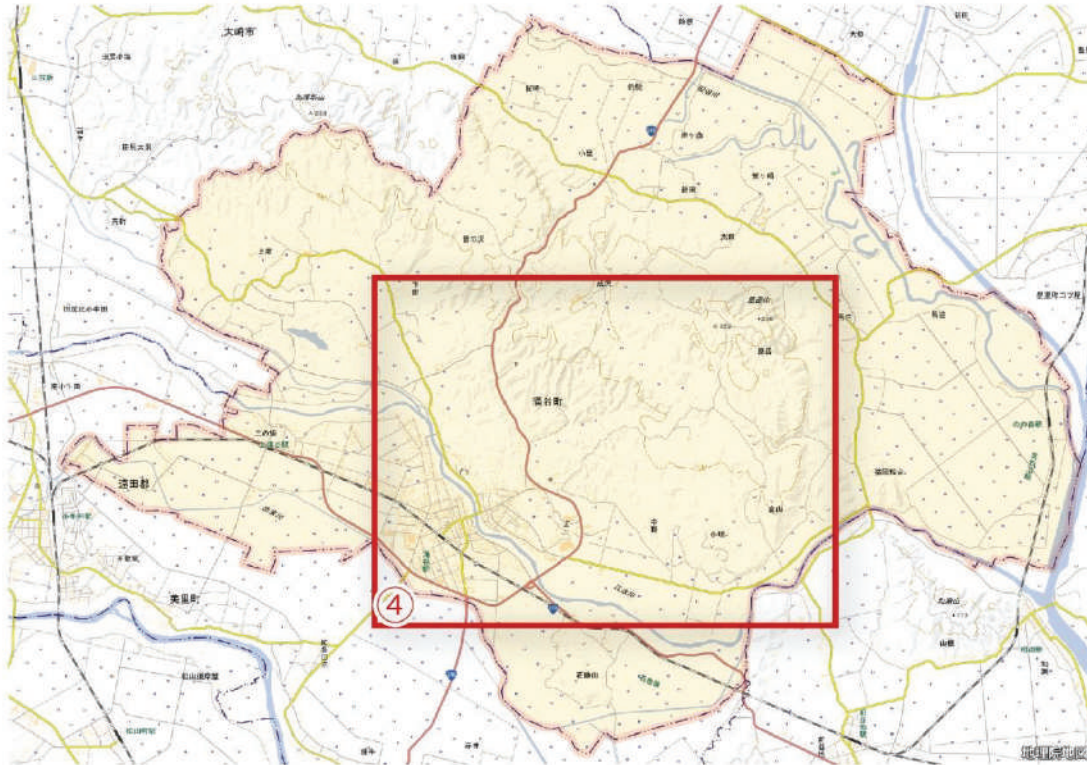
地理院地図を利用し作成

エリア③

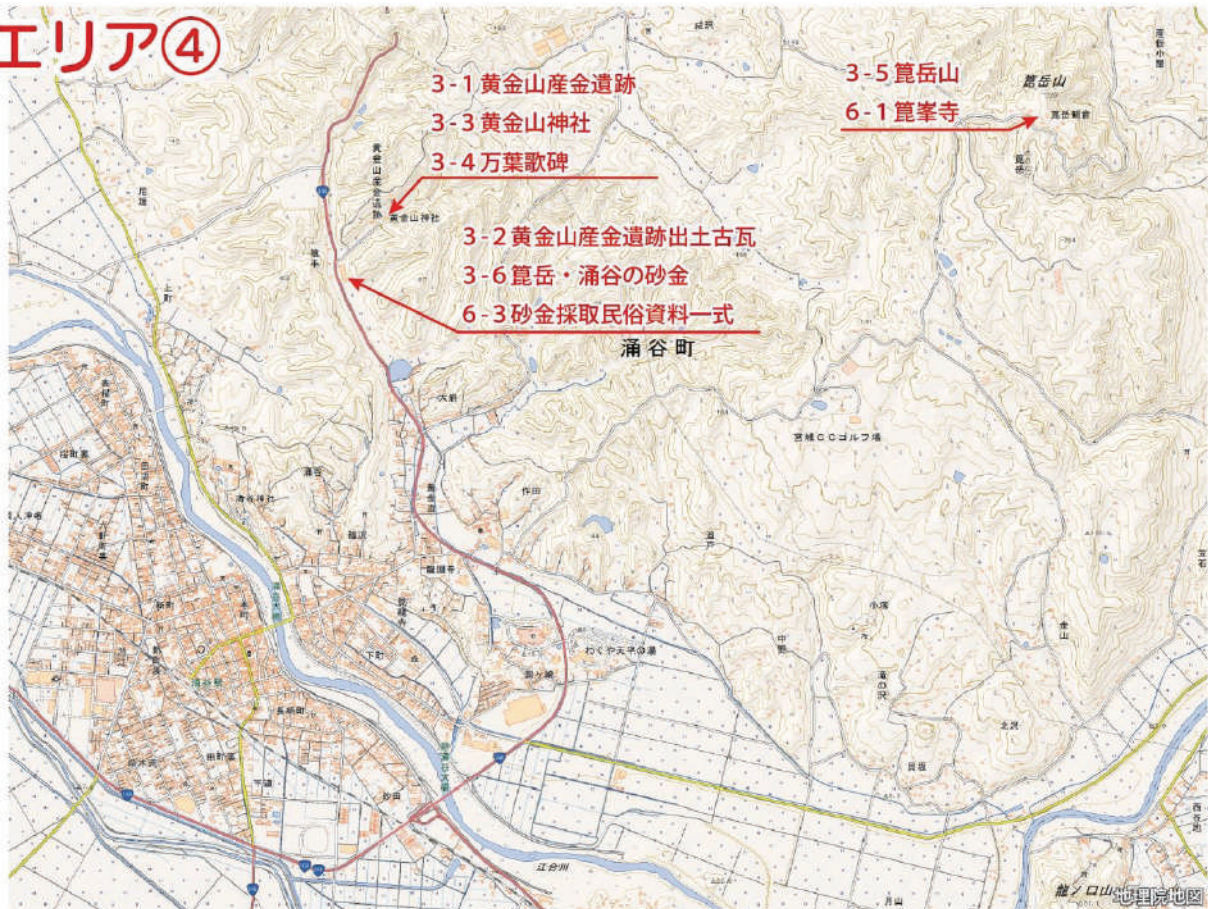


構成文化財の位置図 (宮城県涌谷町)

地理院地図を利用し作成

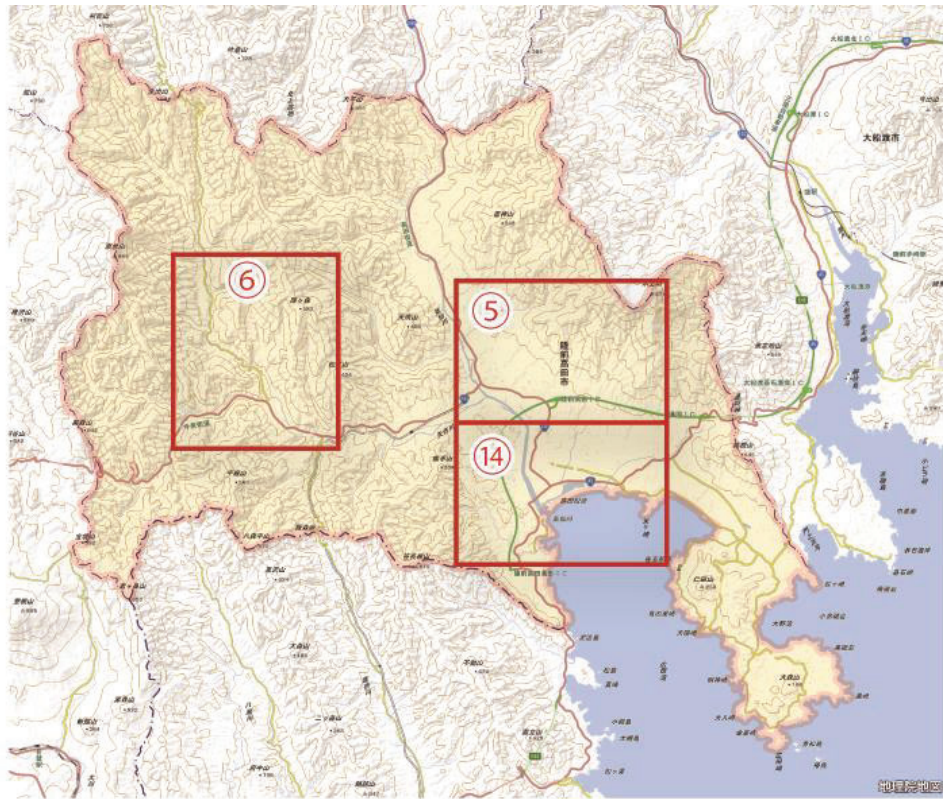


エリア④



構成文化財の位置図 (岩手県陸前高田市)

地理院地図を利用し作成



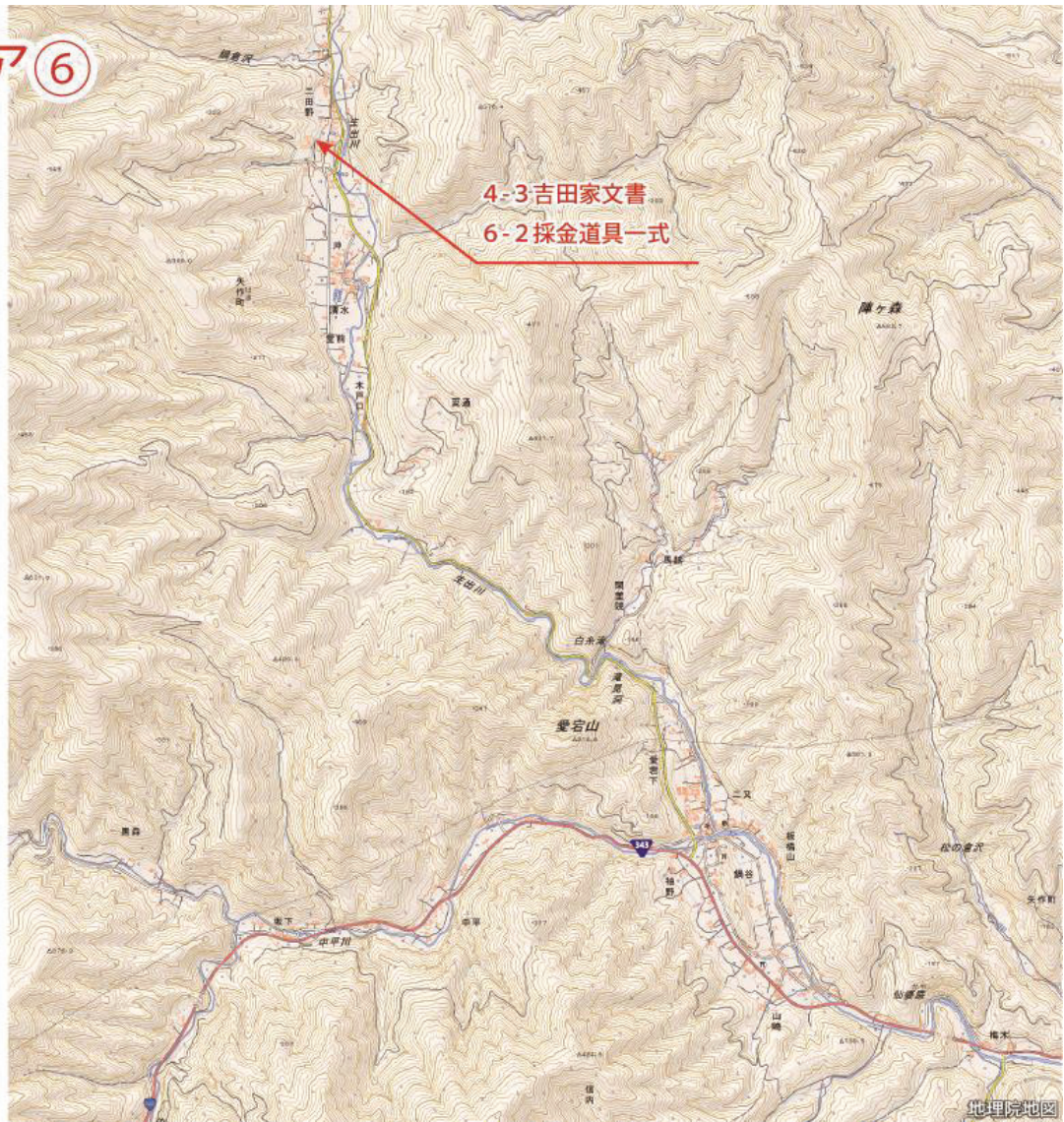
エリア⑤



構成文化財の位置図 (岩手県陸前高田市)

地理院地図を利用し作成

エリア⑥



構成文化財の位置図 (岩手県陸前高田市)

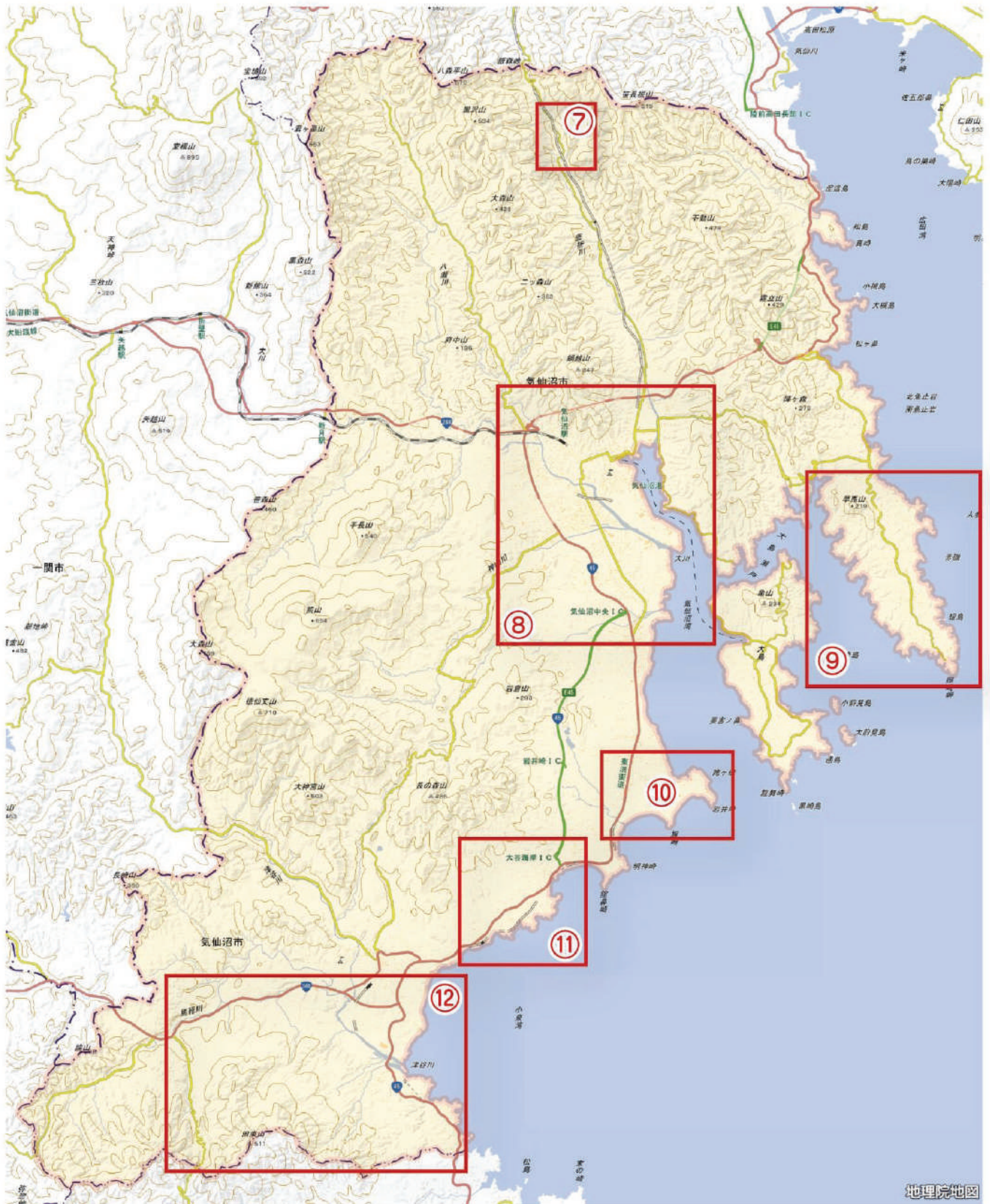
地理院地図を利用し作成

エリア⑭



構成文化財の位置図 (宮城県気仙沼市)

地理院地図を利用し作成



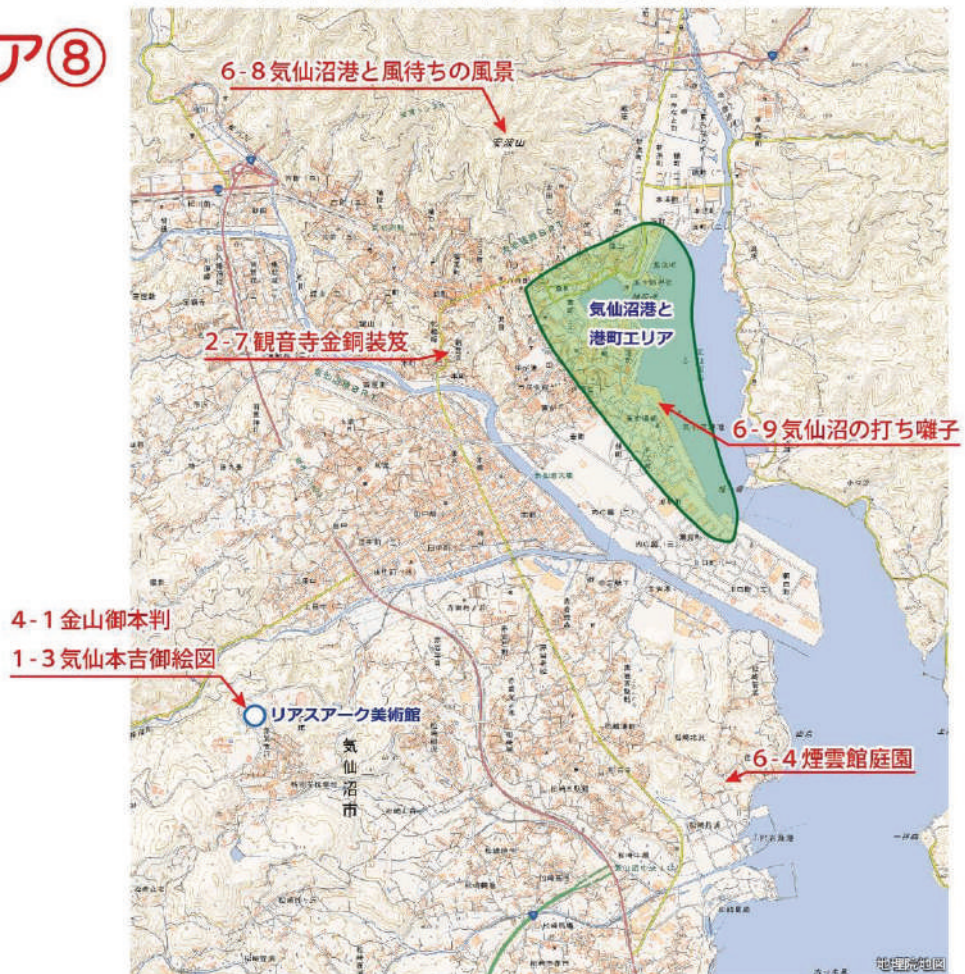
構成文化財の位置図 (宮城県気仙沼市)

地理院地図を利用し作成

エリア⑦



エリア⑧



構成文化財の位置図 (宮城県気仙沼市)

地理院地図を利用し作成

エリア⑨



エリア⑩



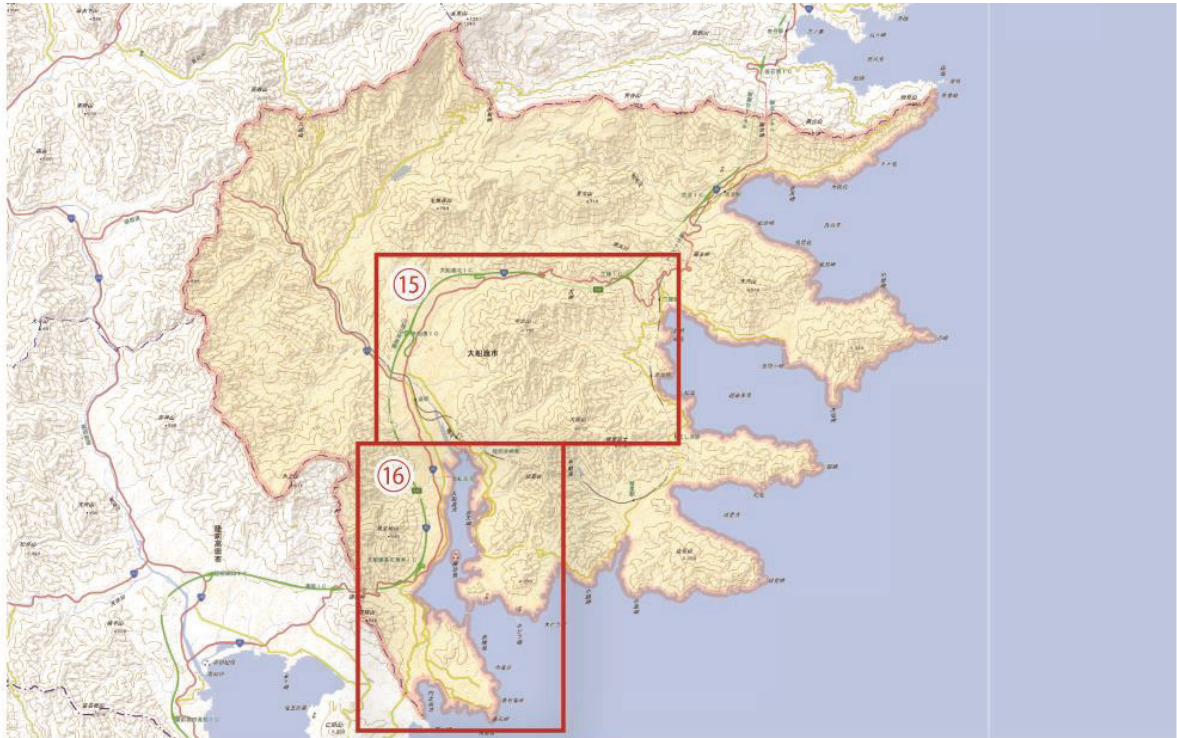
構成文化財の位置図 (宮城県石巻市)

地理院地図を利用し作成



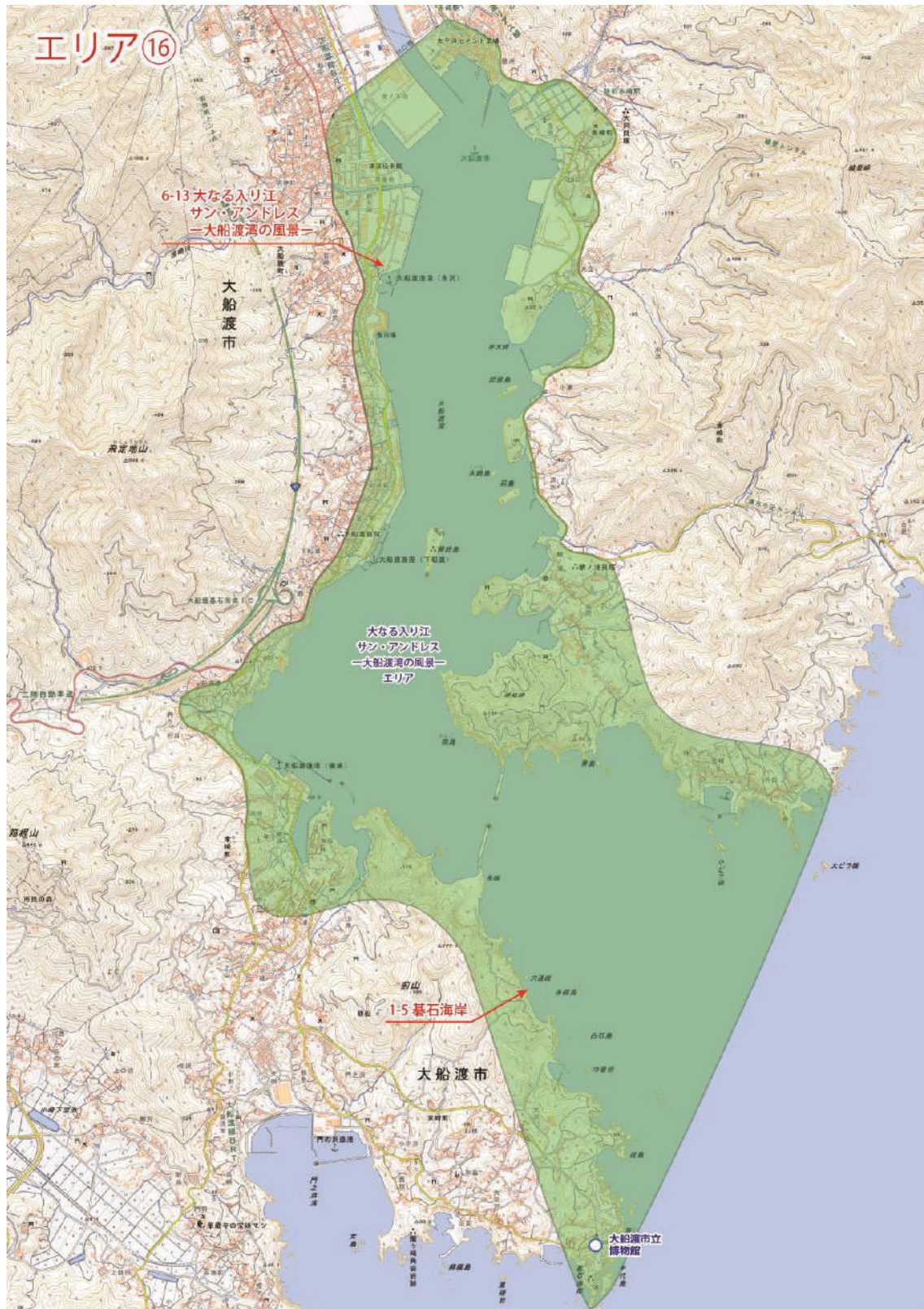
構成文化財の位置図 (岩手県大船渡市)

地理院地図を利用し作成



構成文化財の位置図 (岩手県大船渡市)

地理院地図を利用し作成



ストーリー

～はじまりは一粒の“砂金”から～

日本で初めて“金”が産出されたのは奈良時代の陸奥国。古来より「みちのく」と呼ばれ、現在の岩手県や宮城県を含むこの地には、約4億5千万から1億年前につくられた金鉱脈が眠る特異な地質が広がっています。「日本で“金”は採れない」とされていた当時の常識を覆した一粒の砂金の産出は、人々の心に“金”への憧れを生み出しました。

砂金採りに始まったみちのくの金採掘はやがて地域一帯の川や海に広まり、アジア有数の産金地へと成長し、鉱石から金を分離する技術が確立されると戦国武将たちは積極的に金山開発を推し進めました。近代、最新技術の導入によって大規模採掘が可能になると、みちのくの産金は最盛期を迎えましたが、昭和後期には終焉を迎えます。みちのくの地は、悠遠な地質史をベースに1,250余年に及ぶ日本の産金史が紡がれた稀有な場所でした。



みちのくGOLD遺跡群全体図

《奥州・平泉》 皆金色の理想郷



みちのくの“金”の象徴

みちのくの“金”。この言葉から真っ先に思い浮かぶのは、岩手県平泉町にある中尊寺「金色堂」ではないでしょうか。その眩さは、仏堂全面を覆う金箔だけではありません。須弥壇に使われた外国産の紫檀や象牙、夜光貝を用いた螺鈿、透かし彫りの金具や漆の蒔絵細工からは、潤沢な砂金を財源とした旺盛なグローバル交易によって、平安時代の細密工芸の粋が平泉に集められていたことがうかがいすることができます。

しかし、“金”が果たした役割は富の象徴だけではありませんでした。末法思想の時代において、造営主である奥州藤原氏は、争いのない平和で平等な世を願い、世の中を明るく照らす理想郷を“金”によって具現しました。ゆえに、奥州藤原氏は“金”の供給地である北上山地や沿岸部の産金地を大切にしました。宮城県気仙沼市と南三陸町にまたがり、産金地を一望できる霊峰田東山には奥州藤原氏ゆかりの寺院跡や経塚群が残り、“金”の消費地・平泉とその理想郷の具現を支えた産金地との深いつながりを伝えています。



経塚群から眺める「みちのく」

《黄金山産金遺跡》 日本の“金”発祥の聖地

では、産金地にはどのような場所があったのでしょうか。まずは日本初の産金地である宮城県涌谷町の「黄金山産金遺跡」を紹介します。

749(天平21)年に発見された砂金は、奈良・東大寺盧舎那仏の鍍金(金メッキ)用に献上され、時の聖武天皇はその喜びから元号を天平から天平感宝に改めました。頂から平泉や三陸地方が望める霊峰篔岳山の南麓、金色の大鳥居の先には、産金を記念して建立された仏堂跡と、その由緒を伝える「黄金山神社」が静穏な空間を創り出しています。神社の境内には初出を礼賛した大伴家持の万葉歌碑が建ち、みちのくと遥か奈良の都が“金”で結ばれたことを伝えています。神社の拝殿横を流れる黄金沢や篔岳山の沢では金色の光を放つ蛍が幻想的に舞い、心のトキメキを掻き立てるかのようにならぬように今でも砂金が



産金を伝える神社



金色に輝く大鳥居

見つけられます。一粒の砂金から始まった日本の“金”の原点を体感することができる聖地、それが黄金山産金遺跡です。

《^{たまやま}玉山金山》 金山採掘の栄枯盛衰

戦国時代、鉱石から金を取り出す技術が確立されると、砂金採りに加えて金山の開発が始まりました。伊達政宗が金山奉行を置いて直接開発した岩手県陸前高田市の「^{りくぜんたかたし}玉山金山遺跡」は、^{かこうがん}花崗岩を基盤とする^{ひかみさん}氷上山の西麓に位置し、膨大な量の“金”と仏像の玉眼にも使われた良質な水晶の産出によって、気仙4大金山の中核となりました。

来訪者を迎えるのは、気仙川沿いの金山入口に建つ高さ15mの塔です。戦争や震災の苦難を受けつつも常に地元の方で再建された塔には、金山に誇りを持つ人々の意志が込められています。道を進むと、金山の衰退に伴って里へと下った鉱夫の生活を支えるために開墾された段々の田畑が広がっています。この集落には、開墾の功績を讃える^{まつざか}「松坂十兵衛定成開拓地の碑」、鉱夫が信仰した「竹駒神社」、^{じゅうべえさだなり}“金山へまた戻りたい”との想いが枝振りに顕われたとされる^{しょうごんじ}「莊厳寺の帰り松」が残り、往時の生活が偲ばれます。山頂までの道々には^{せいれんじょあと}「精錬所跡」や最盛期の坑道口^{せんにんこう}「千人坑」が残り、頂上には金山の守り神として祀られた「玉山神社」が鎮座し、盛山の事跡を伝えています。採掘した石英の欠片「ズリ」が広がり、雪原のように静寂に包まれた山頂と、里に広がる金色の稲穂が揺れる風景の対比が、金山に生きた人々の栄枯盛衰を物語っています。

《^{ししおり}鹿折金山・^{おおや}大谷鉱山》 日本のゴールドラッシュの一翼を担った近代鉱山

明治時代になり最新技術が導入されると、各地で大規模な鉱山開発が始まり、空前のゴールドラッシュが起こります。その熱気の中、宮城県気仙沼市の^{ししおり}「鹿折金山」では1904(明治37)年、日本最大の自然金“モンスターゴールド”を産出。同年開催の米国セントルイス万国博覧会に出品され、世界に衝撃を与えました。

鹿折金山とともにゴールドラッシュを担った鉱山がありました。気仙沼市南部の丘陵地にそびえる^{おおや}「大谷鉱山」です。1935(昭和10)年頃の最盛期には年間約1tもの“金”を産出。巨大精錬所は不夜城と化し、約1,300人の従業員のため映画館・幼稚園まで備えた一大鉱山町が形成されました。そんな圧倒的存在感を有し日本経済の一翼を担った二つの鉱山も数十年前に閉山となり、自然に還ろうとしています。しかし、麓の資料館に残されたハンマーや磨り減ったタガネは、狭い坑道の中、経験と勘を頼りに岩盤を掘り進めた鉱夫たちの“金”への憧れや鉱山の賑わいを今に伝え、色褪せることのない魅力を届け続けています。

～花咲け“みちのくGOLD”浪漫～

砂金採りが地域に浸透し、金鉱山の開発が進められる中で、産金で名を成した山々は地域に安定をもたらす聖地となり、“金”と人々の^{えにし}縁によって生み出された文化は「里」や「海」の人々へも伝播し、祝いや祈り、活気や賑わいの象徴として脈々と人々に受け継がれてきました。採金に用いられた道具類は「里」の生活に溶け込み、山の神に奉納された太鼓の音や作業唄は「海」の文化と融合して港町を彩る独特の芸能が開花しました。

私たちは、みちのくの地が育んだ山川と里、海とともに生きる風土の中に根付いた“金”との縁を“みちのくGOLD”と名付け、価値や魅力の掘り起しを開始しました。文化、信仰、産業、ありとあらゆる生活の中に隠れた“みちのくGOLD”の発見は、かのマルコ・ポーロが「黄金の国ジパング」と称した理想郷にも勝り劣らぬ、煌めく浪漫に満ち溢れています。



地域の誇りを示す塔



頂に鎮座する守り神

モスゴールド産出の坑道口

丘陵山腹の巨大精練所跡

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
～はじめは一粒の“砂金”から～				
1-1	いわい さき 岩井崎 さんりくふっこうこくりつこうえん (三陸復興国立公園)	未指定 (天然記念物)	三陸リアス海岸の岬の1つであり、三陸ジオパークのジオサイトの1つ「岩井崎」は、浸食された岩の割れ目から高く吹き上げる潮が美しい景勝地であるとともに、日本列島では珍しい古生代の地質が剥き出しとなっています。金脈を探す指標である、地質の“へり”を間近に見ることができる貴重な場所には浪漫が溢れています。	宮城県 気仙沼市
1-2	ひかみさん 氷上山	未指定 (名勝、天然記念物)	約4億5千万年前の氷上花崗岩で構成される三陸ジオパークのジオサイトの山(874m)。古くから良質な金や水晶の産出で知られ、玉山金山遺跡は氷上山の中腹に位置しています。	岩手県 陸前高田市
1-3	けせんもとよしおんえず 気仙本吉御絵図	市有形 (歴史資料)	気仙郡(岩手県大船渡市、陸前高田市、住田町を中心とする地域)と本吉郡(宮城県気仙沼市、南三陸町を中心とする地域)にある金山85か所を黄金色で示した近世絵図。広範囲に金資源が点在する様子がよく分かります。豊臣秀吉や伊達政宗など戦国武将たちが、金山を掌握し、積極的に採金事業を展開させた状況を具体的に示す貴重な資料です。	宮城県 気仙沼市
1-4	いまでやま 今出山	未指定 (名勝、天然記念物)	約1億1000～3000万年前の中生代の前期白亜紀、海底火山等の活動が活発化し、地下深部にあった安山岩等の火成岩類が押し上げられ、今出山の原型が形成されました。その際、内部にできた亀裂にマグマから溶け込んだ金を含む熱水が流入し、冷え固まって金鉱脈が形成されました。山中には今出山金山があり、中生代の金鉱脈形成史を示し、悠遠の地質史を物語っています。	岩手県 大船渡市

1-5	ごいしかいがん 碁石海岸	国指定 (名勝および 天然記念物) 国立公園	海底に泥や砂が堆積してできた縞模様 の地層が広がる碁石海岸では、中生 代の前期白亜紀に起きた海底火山等 の活発化による造山運動(山や山脈等 をつくりだす運動)の痕跡が随所に見 られます。穴通磯の褶曲、碁石浜等の 黒色頁岩、垂水浜のホルンフェルス等 は、みちのくの金を生み出した大規模 な造山運動の証であり、悠久の時の流 れを感じることができます。	岩手県 大船渡市
<<奥州・平泉>> <small>かいこんじき</small> 皆金色の理想郷				
2-1	ちゅうそんじこんじきどう 中尊寺金色堂	国宝 (建造物の部)	「みちのく」の砂金をもとに築かれた皆 金色の仏堂。金の加工はもとより、国内 外産の物産をふんだんに使い当時の装 飾技術をあますことなく使っています。 造営主である奥州藤原氏は、財力を誇示 するためではなく、争いのない平和で平 等な世を願う理想郷を厳かな光を放つ 「金」で表現しました。「黄金の国ジパ ング」に記載された「黄金の宮殿や民家」 のモデルとなったと言われています。	岩手県 平泉町 (中尊寺)
2-2	きんぎんまきえかがみばこ 金銀蒔絵鏡箱	重文	金色堂と同様に当時の装飾技術をあ ますことなく使う鏡箱。平泉で生産さ れたもので、当時の平泉には、細密工 芸の粋が集められていたことを示し ています。	岩手県 平泉町 (平泉文化遺産セ ンター)
2-3	さきんふちやくかたくちばちはへん 砂金付着片口鉢破片	重文 (考古資料)	集積した「みちのくの砂金」を金粉に 加工する際に使われた道具。加工した 金は蒔絵や金泥に使用されました。 当時の平泉には、理想郷を具現するた め、産出した金を集めると共に、それ を活かすための工芸技術の粋が集め られていたことを示しています。	岩手県 平泉町 (平泉文化遺産セ ンター)
2-4	ようかいきんふちやくるつぽはへん 溶解金付着坩堝破片	重文 (考古資料)	集積した「みちのくの砂金」を溶解す る際に使われた道具。溶解した金は金 銅製品に使用されました。 当時の平泉には、理想郷を具現するた め、産出した金を集めると共に、それ を活かすための工芸技術の粋が集め られていたことを示しています。	岩手県 平泉町 (平泉文化遺産セ ンター)

2-5	たつがねさんきょうづかぐん 田東山経塚群	県史跡	奥州藤原氏が神仏に祈りを捧げる拠点とした田東山三ヶ寺（清水寺、寂光寺、金峰寺）の中央、田東山山頂につくられた 11 基の経塚。末法思想が広がっていた平安時代末期、経典を後世に残すため、金銅製の筒に入れた経典を埋め、塚を築きました。奥州藤原氏が産金の拠点とした三陸地方、気仙本吉御絵図に記載される近世金山地帯が一望できる適地につくられています。理想郷の創造をすすめる奥州藤原氏が三陸の産金地域に与えた影響力の強さを物語ることのできる重要な遺跡です。	宮城県 気仙沼市 南三陸町
2-6	こんしきんでいだいはんにやきょう 紺紙金泥大般若経	県有形 (書跡・典籍)	奥州藤原氏が神仏信仰の拠点とした田東山「寂光寺」の什物として伝世する一切経。金銀泥で経文を書写しており、平泉中尊寺に残る紺紙金泥一切経の一卷と考えられています。当時の信仰が金によって支えられていたことを理解できるだけでなく、田東山に展開した仏教遺跡群が、奥州藤原氏の影響を強く受けていることを具体的に示す貴重な遺物です。	宮城県 南三陸町 (荒澤神社)
2-7	かんのんじこんどうそうおい 観音寺金銅装笈	市有形 (工芸品)	三陸地方と平泉中尊寺とのかかわりが深い観音寺に伝わる山伏が背負った笈。仏像や仏具・経典を納め、リュックサックのように使用します。全面に仏教的なモチーフが細工され、金で鍍金された優れた工芸品です。金工技術を今に伝える歴史的な工芸品です。	宮城県 気仙沼市
<small>こがねやま</small> 《黄金山産金遺跡》 日本の“金”発祥の聖地				
3-1	こがねやまさんきんいせき 黄金山産金遺跡	国史跡	黄金山地区にある仏堂跡。日本初の産金について聖武天皇が「神仏が祝福したもの」と宣べたことを受け、採金の現地に建立した仏堂です。日本初の産金の場所がこの地であることを確定する重要な遺跡です。	宮城県 涌谷町

3-2	<p>こがねやまさんきんいせき 黄金山産金遺跡</p> <p>しゅつどこがわら 出土古瓦</p>	<p>県有形 (考古資料)</p>	<p>黄金山産金遺跡に建てられた仏堂に使われた屋根瓦。瓦の形状から円堂形式の仏堂が建てられたこと、『天平』と年号を記載した瓦が含まれるため仏堂の建築年代を天平年間に限定することができます。遺跡の内容を具体的に重要な資料です。</p>	<p>宮城県 涌谷町 (天平ろまん館)</p>
3-3	<p>こがねやまじんじゃ 黄金山神社</p>	<p>拝殿：町有形 本殿：未指定 (建造物)</p>	<p>産金を記念して建てられた仏堂跡の上に建つ神社。神社の由緒は日本初の産金時まで遡り、近世まで金を産する山自体が御神体であったと伝えられています。産金を記念して建てられた仏堂が遺跡となった後も、日本初の産金地がこの場所にあることを伝えて続けてきた由緒ある神社です。</p>	<p>宮城県 涌谷町</p>
3-4	<p>まんよう か ひ 万葉歌碑</p>	<p>未指定 (有形)</p>	<p>黄金山神社境内にある歌碑。聖武天皇とともに産出の喜びを詠う大伴家持の万葉歌を刻んでおり、「小田郡(涌谷町)にある山」で産出した「金」が、はるか奈良の都に運ばれ国家的な慶事となったことが詠み込まれています。「みちのくの金」を象徴する歌碑となっています。</p>	<p>宮城県 涌谷町</p>
3-5	<p>ののだけさん 籠岳山</p>	<p>未指定 (名勝、天然 記念物)</p>	<p>涌谷町域の中心に位置する霊峰籠岳山(236m)。黄金沢を始めとして、砂金を産出する河川が山中を流れています。万葉歌に「小田郡(涌谷町)にある山」で産出したとあり、この山を舞台に日本初の採金事業が展開したことが明らかとなっています。</p>	<p>宮城県 涌谷町</p>
3-6	<p>ののだけ わくや さきん 籠岳・涌谷の砂金</p>	<p>未指定 (天然記念物)</p>	<p>涌谷町の籠岳山から産出する砂金。地層の中に砂金が堆積する二次鉱床を起源とします。日本の採金史が「砂金採り」にはじまることを明示する鉱物です。749(天平21)年に初めて採取した砂金は、東大寺盧舎那仏の鍍金(金メッキ)材料として用いられました。</p>	<p>宮城県 涌谷町 (天平ろまん館)</p>

《玉山金山》 金山採掘の栄枯盛衰				
4-1	きんざんごほんばん 金山御本判	市有形 (歴史資料)	豊臣秀吉がはじめた金採取制度の許可証。個人や少人数で稼働する、砂金採取や鉱石の露天掘りを許可した木製の許可書です。秀吉以後も伊達政宗が継承し実施。やがてこの制度を通じて採金は、人々の生業の1つとして地域に広く根付いていきました。古代から続く「みちのく」の砂金採取は、近世になっても為政者たちを魅了していたことを示しています。	宮城県 気仙沼市 (リアス・アーケ 美術館)
4-2	たまやまきんざんいせき 玉山金山遺跡	未指定 (史跡)	氷上山中腹に位置する金山。江戸時代、伊達政宗が積極的に金山開発を行い「気仙4大金山」の1つと呼ばれました。精錬所跡、検問所跡、千人坑などの遺構が山中に点在しており、近世の金山についてその全容を知ることができます。	岩手県 陸前高田市
4-3	よしだけもんじょ 吉田家文書	県有形 (古文書)	気仙地区の金山に関する記述が多数みられる古文書。吉田家は気仙地区の大肝入(庄屋)を勤めた家柄で、当時の金山の稼働の様子が書かれています。豊臣秀吉や伊達政宗など時の為政者たちが、積極的に採金事業を展開させた状況を具体的に示す貴重な資料です。	岩手県 陸前高田市 (陸前高田市博物 館)
4-4	ひかみさん すいしょう 氷上山の水晶	未指定 (天然記念物)	氷上花崗岩にできた鉱床から産出する水晶。水晶は、花崗岩の主要構成鉱物である石英(金鉱石)が結晶化したもので、仏像の玉眼に使用されました。今も玉山金山の廃石の中に見つけることができます。金鉱石を特徴づける貴重な資料です。	岩手県 陸前高田市 (陸前高田市立博 物館)

4-5	せかいだいいせきたまやまれのいき 「世界大遺跡玉山霊域」 とう の塔	未指定 (歴史資料)	昭和7年のJR大船渡線竹駒駅の開設とともに、金山を顕彰しその名を後世に伝えたいという地域の方々の強い思いで設置された塔です。戦争や震災で幾度も破壊されましたが、その度毎に地域住民の力で再建され今に至っています。金山の繁栄が如何に多大な影響を地域社会に与えたのかを知る上で欠かす事のできない貴重な歴史資料です。	岩手県 陸前高田市
4-6	たまやまじんじゃ 玉山神社	未指定 (史跡)	竹駒神社と共に金山の守護神として勧請された神社。奥州藤原氏や伊達氏が深く信仰しました。境内周辺は金鉱石や水晶化した鉱石が露出しており、当時の佇まいを今に伝えています。	岩手県 陸前高田市
4-7	まつざかじゅうべいさだなり 「松坂十兵衛定成」 かいたくちひ 「開拓地」の碑	未指定 (有形)	衰退する金山で働く鉱夫の生活を支えるため、山間部を田畑として開拓した事跡を顕彰する碑。碑の周辺の田畑は、「新田」の地名で呼ばれています。	岩手県 陸前高田市
4-8	まつざかせき 松坂堰	未指定 (史跡)	衰退する金山で働く鉱夫の生活を支えるため、開拓した新田に壺の沢川から水を引いた用水堰。玉山金山の開発で培われた引水技術や坑道掘削の際の測量技術を利用してつくられています。堰からのびる幹線水路約1キロメートルは、現在も使用されています。	岩手県 陸前高田市
4-9	たけこまじんじゃ 竹駒神社	未指定 (史跡)	玉山神社と共に金山の守護神として勧請された神社。玉山神社と対をなし、金山を守護してきた重要な社です。奥州藤原氏や伊達氏が深く帰依しましたが、金山の衰退とともに里において現在地に遷座しました。金山の栄枯盛衰を物語る貴重な文化財です。	岩手県 陸前高田市

4-10	しょうごんじ かえ まつ 莊嚴寺の返り松	未指定 (天然記念物)	莊嚴寺の境内にある松（樹齢約200～400年）。玉山金山所縁の寺院であった莊嚴寺が、金山の衰退により現在の地へ遷座するに伴い、植えられました。「玉山に帰りたい願を龍のようにくねる姿で表している」と言われており、里人の金山に対する思いを象徴する松として親しまれています。	岩手県 陸前高田市 (莊嚴寺)
4-11	きゅうよしだ け じゅうたく おもや 旧吉田家住宅主屋	県有形 (建造物)	<p>仙台藩気仙郡には「気仙4大金山」があり、藩は御金山下代を設置し、玉山金山を御直山にしたと言われています。</p> <p>吉田家は世襲的に郡の大肝入を務めた家柄で、玉山金山も含む気仙地区を監督していました。</p> <p>当家が所有する「吉田家文書」には、金山や御金山下代に関する記録も残されています。</p> <p>江戸時代の佇まいを体感できる本住宅は、吉田家文書に残された記録と併せて、産金経営と地域社会との関係を紐解くための重要な文化財であり、金採掘にまつわる栄枯盛衰を現代に伝える唯一の建造物です。</p>	岩手県 陸前高田市
<p>《<small>ししかり</small>鹿折金山・<small>おおや</small>大谷鉱山》 日本のゴールドラッシュの一翼を担った近代鉱山</p>				
5-1	ししかり きんざんあと 鹿折金山跡	未指定 (産業遺産)	気仙沼市鹿折川上流に位置する金山。明治時代の金山近代化の中で、世界を驚嘆させた日本最大の自然金「モンスターゴールド」を産出しました。「みちのく」の金山を、国家を支える資源にさせる立役者となった金山です。山麓の旧鉱山事務所から山中にかけて、坑道跡やトロッコ跡、鉱石を投棄したズリの山が点在しています。	宮城県 気仙沼市

5-2	ばんこくはくらんかい セントルイス万国博覧会 だいしょうじょう 大賞状	未指定 (歴史資料)	明治 37(1904)年、鹿折金山では重さ 2.25 キロ、含有率 83%の怪物金「モンスターゴールド」を採掘しました。小さな金塊すら産出が難しい中、その大きさは世界に驚愕を与え、同年開催のアメリカ・セントルイス万国博覧会に出品され、青銅メダルを受賞します。これはその受賞を記念した大賞状です。「黄金の国ジパング」の底力を世界に示し、みちのくの黄金産出の実態を見せた証となっています。	宮城県 気仙沼市 (鹿折金山資料館)
5-3	ししおりきんざんさいくつしりょういっしき 鹿折金山採掘資料一式	未指定 (歴史民俗資料)	鹿折金山で鉱石の採掘や選鉱に使用した資料。採掘具や金を溶かした溶鉱炉をはじめ古写真や文書類などで構成しています。金山採掘の過程や怪物金「モンスターゴールド」に関する記録が含まれており、近代化していく金山の様子がよくわかる資料です。	宮城県 気仙沼市 (鹿折金山資料館)
5-4	おおやこうざんあと 大谷鉱山跡	未指定 (産業遺産)	気仙沼市大谷地区にある金鉱山。鹿折金山でのモンスターゴールド産出の影響を受け、明治 38(1905)年に採掘を開始し、昭和 51(1976)年まで操業し鉱山町を形成しました。1250 余年に及ぶ、採金事業の中で最終形態を示した貴重な遺産です。山腹にそびえる、コンクリート造りの巨大な精錬所跡は、当時の繁栄ぶりを偲ばせるモニュメントとなっています。	宮城県 気仙沼市
5-5	おおやこうざんさいくつしりょういっしき 大谷鉱山採掘資料一式	未指定 (歴史民俗資料)	大谷鉱山で鉱石の採掘や選鉱に使用した資料。鉱員たちが使用した採掘具をはじめ、掘削や選鉱に関わる機械や文書、写真記録などで構成しています。日本の近代金鉱山が辿った大規模化と繁栄、そして時世により閉山を迎える有り様までを伺い知る貴重な資料です。	宮城県 気仙沼市 (大谷鉱山歴史資料館)
5-6	おおやこうざんさいくつきんこうせき 大谷鉱山採掘金鉱石	未指定 (産業遺産)	大谷鉱山で採掘した金鉱石。北上山地南部地域の自然金は、肉眼でも確認できるような粒で発見できることが多いのが特徴とされており、この金鉱石でも容易に金粒を見つけることができます。砂金採りを始めとする事業が広く普及したのもこうした「みちのくの金」の特徴があるからと言えます。	宮城県 気仙沼市 (大谷鉱山歴史資料館)

5-7	いまでやまきんざんあと 今出山金山跡	未指定 (史跡)	今出山金山は、平泉の黄金文化を支えたとも伝わり、江戸時代に入ると坑道掘りが行われ「気仙四大金山」のひとつに数えられました。金山には、いくつもの坑道跡や水路跡等のほか、昭和初期に進んだ鉱山設備の機械化の痕跡を今に伝えています。東麓の黒森平では、全盛期に事務所や映画館、長屋が建設され、数百人もの人々が暮らしていました。苔むした石垣等が現存し、近代鉱山の歴史を今に伝えています。	岩手県 大船渡市
～花咲け“みちのくGOLD”浪漫～				
6-1	こんぼうじ 籠峯寺	観音堂：県指定 白山社・仁王門：町指定 (建造物)	日本初の金を産出によって「神仏の加護を受けた聖なる山」と位置付けられた籠岳山は、平安時代になると山岳信仰と結びつき「みちのくに安泰をもたらす聖地」と認識されるようになりました。一山寺院「籠峯寺」は、創建から1,250年を経た今も山頂を「殺生禁断」の聖域としてまもり続けており、地域信仰の拠点となっています。籠峯寺は、産金で名を馳せた山が聖地化する中で、地域の安定を願う信仰の対象へと昇華したことを示す好例です。	宮城県 涌谷町
6-2	さいきんどうぐいっしき 採金道具一式	未指定 (民俗資料)	川での砂金採取や、鉱石から金を取り出す際に使われた道具類。古代より続けられてきた砂金採りは、近世の御本判制度を通じ、地域の人々生活を支える生業として根付きました。また、鉱石から採取する金山についても、その稼働が終了した後も個人経営による採金事業として里の中に定着し、近年まで採金事業が続けられてきました。暮らしの中に溶け込み、息づいてきた道具です。	岩手県 陸前高田市 (陸前高田市立博物館)

6-3	さきんさいしゆみんぞくしりょういっしき 砂金採取民俗資料一式	未指定 (民俗資料)	篋岳山の沢での砂金採取に使われた道具類。古代より続けられてきた砂金採りは、近世の御本判制度を通じ、地域の人々の生活を支える生業として根付きました。日本初の産金地である涌谷町でも、近年まで、農閑期の副業として砂金採りが行われてきました。暮らしの中に溶け込み、息づいてきた道具です。	宮城県 涌谷町 (天平ろまん館)
6-4	えんうんかんていえん 煙雲館庭園	国名勝	江戸時代、気仙沼に拠点を置いた仙台藩上級家臣・鮎貝氏の庭園。金鉱石をすり潰すのに使われた金山用の石臼が庭石として転用されています。近世金山が乱立し、古代から続く採金事業が広く根付いてきた地域だからこそ、こうした庭園が生まれました。金の採取に使われた道具類が地域の生活に溶け込んだことを示す好例と言えます。	宮城県 気仙沼市
6-5	ひでひらぬり 秀衡塗	未指定 (工芸品) (経済産業大臣指定 伝統的工芸品)	金色堂をはじめとする金の加工・細工技術を今に伝える伝統的工芸品。藤原秀衡が京より職人を招来し、産出した砂金をふんだんに使って豪華絢爛な器を作らせたのが起源とされます。	岩手県 平泉町
6-6	くびふりべーご	未指定 (民俗資料)	玉山金山で産出した金を俵につめ、牛で運ぶ姿を模した張子の郷土玩具。江戸時代から製作されている伝統工芸品で、金山の繁栄を偲ぶ一品として地域に受け継がれてきました。	岩手県 陸前高田市
6-7	こだてすずきけじゅうたく 古舘鈴木家住宅	未指定 (建造物、 歴史資料)	江戸時代、鹿折金山などの金山開発や砂金徴収を任された唐桑の旧家の住まい。古舘鈴木家は延宝3(1675)年、紀州熊野から鯉釣り溜漁を伝え、のちに漁業や醸造業など、時代に合わせた多角的な家経営を展開し、明治時代には大谷鉱山の再開発も手掛けました。古舘鈴木家に残されている金掘り関係の古文書から、この地方で盛んに金掘りが行われていたことが分かります。この地域に浸透した「金」採掘、海と共に生きた旧家の在り方を伝える好例です。	宮城県 気仙沼市

6-8	<small>けせんぬまこう かざま ふうけい</small> 気仙沼港と風待ちの風景	未指定 (文化的景 観・国登録有 形文化財)	江戸時代、この地域での金掘りは生活の糧として根付き、日常的に盛んに行われるようになりましたが、盛んになればなるほど長期にわたり安定した金の産出量を確保することは難しく、地域の大きな負担となっていきました。気仙沼では、鰹漁などを導入しながら金掘りを継続、やがて風を受けて出帆するたくさんの船がひしめく「風待ち港」として発展していきます。気仙沼では、山師（鉦夫）たちが拓き、支えてきた港町だと言われています。「気仙沼港と風待ちの風景」には、採金が「みちのく」の風土に解け込み、港町を発展させた歴史が込められています。	宮城県 気仙沼市
6-9	<small>けせんぬま う ばやし</small> 気仙沼の打ち囃子	一部指定 (無形民俗文 化財)	金の産出を祝う「山の神」祭りで奉納された太鼓囃子。港町の発展と共に、航海の安全や大漁も祈願する芸能として根付きました。躍動感があり勇壮な太鼓の響きは、採金の中で生み出された文化が海の文化と結びつき、「活気や賑わいの象徴として脈々と人々に受け継がれてきた」ことを感じさせる貴重な郷土芸能です。	宮城県 気仙沼市
6-10	<small>けせんぬま たいりょうたいこみ</small> 気仙沼の大漁唄込 ・ <small>しびたちたいりょうたいこみ</small> 鮪立大漁唄込 ・ <small>さきはまたいりょうたいこみ</small> 崎浜大漁唄込	市指定 (無形民俗文 化財)	金山で働く鉦夫たちの労働唄が、漁師たちに伝わって大漁を祝う唄となった。金山からもたらされた文化が海の文化と融合し、地域産業の発展と共に育まれていったことを強く実感させる郷土芸能です。「みちのくの地が育んだ山川と里、海とともに生きる風土の中に根付いた“金”との縁」を物語る特色ある文化財です。	宮城県 気仙沼市

6-11	きんかさんもうで 金華山詣	未指定 (民俗)	出羽三山、恐山とともに東奥の三大霊場に数えられる金華山。「みちのくの金」が日本の金を代表するブランドとなっていくなかで、近世以降の金華山は、黄金伝説と結びつき信仰の聖地となり、「金華山詣」として大きく発展しました。現在も「黄金の神が坐す祈りの島」として信仰が息づいています。	石巻市
6-12	きんかさんどう 金華山道	未指定 (景観)	石巻から金華山に向かう参詣道は「金華山道」と呼ばれました。明治初期まで女人禁制が敷かれており、女性たちは金華山には登拝せず、山鳥に立てられた「一の鳥居」から遙拝しました。現在は女人禁制が解かれ、鮎川港から直接金華山にわたることができますが、金華山道の終点である「山鳥の渡し」周辺は、「一の鳥居」やかつての船着場や古道が残り、当時の景観をいまに伝えています。	石巻市
6-13	だい 大なる入り江サン・アンドレス — おおみなとわん ふうけい — 大船渡湾の風景 —	未指定 (文化的景観) 国立公園	慶長 16 年 (1611)、金銀島を探し求めるスペイン人探検家セバスチャン・ビスカイノが来航し大船渡湾を「サン・アンドレス」と名付け、「大なる入り江」と評しました。古くから天然の良港として様々な船が行き交ってきた大船渡湾には、世界の探検家が「黄金の国ジパング」を目指した大航海時代を偲ぶ風景が息づいています。	岩手県 大船渡市

(※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

～はじまりは一粒の“砂金”から～

1-1 岩井崎（三陸復興国立公園）



1-2 氷上山



1-3 気仙本吉御絵図



1-4 今出山



1-5 基石海岸



《奥州・平泉》 かいこんじき 皆金色の理想郷

2-1 中尊寺金色堂



2-2 金銀蒔絵鏡箱



2-3 砂金付着片口鉢破片



2-4 溶解金付着坩堝破片



2-5 田東山経塚群



2-6 紺紙金泥大般若経



2-7 観音寺金銅装笈



こがねやま
《黄金山産金遺跡》 日本の“金”発祥の聖地

3-1 黄金山産金遺跡



3-2 黄金山産金遺跡出土古瓦



3-3 黄金山神社



3-4 万葉歌碑



3-5 篔岳山

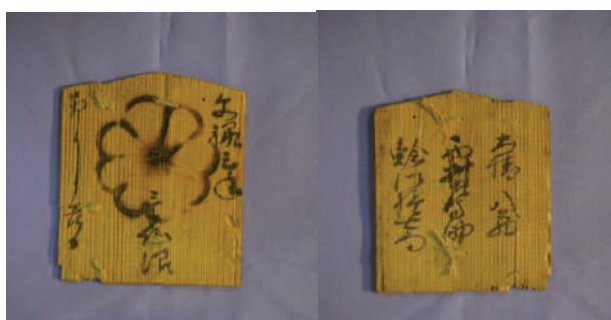


3-6 篔岳・涌谷の砂金



^{たまやま}
《玉山金山》 金山採掘の栄枯盛衰

4-1 金山御本判 (左が表面・右が裏面)



4-2 玉山金山遺跡



4-3 吉田家文書



4-4 氷上山の水晶



4-5 「世界大遺跡玉山霊城」の塔



4-6 玉山神社



4-7 「松坂十兵衛定成開拓地」の碑



4-8 松坂堰



4-9 竹駒神社



4-10 荘厳寺の返り松



4-11 旧吉田家住宅主屋



《^{ししきり}鹿折金山・^{おおひ}大谷鉱山》 日本のゴールドラッシュの一翼を担った近代鉱山

5-1 鹿折金山跡



5-2 セントルイス万国博覧会大賞状



5-3 鹿折金山採掘資料一式



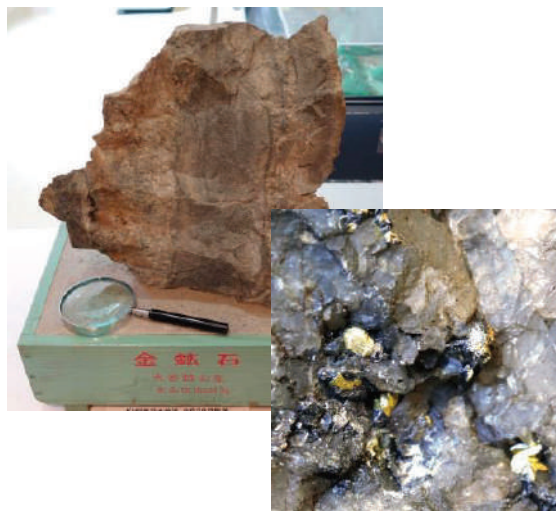
5-4 大谷鉱山跡



5-5 大谷鉱山採掘資料一式



5-6 大谷鉱山採掘金鉱石



5-7 今出山金山跡



～花咲け“みちのくGOLD”浪漫～

6-1 篁峯寺(観音堂)



6-2 採金道具一式



6-3 砂金採取民俗資料一式



6-4 煙雲館庭園 (下は庭石に転用された鉱山白)



6-5 秀衡塗



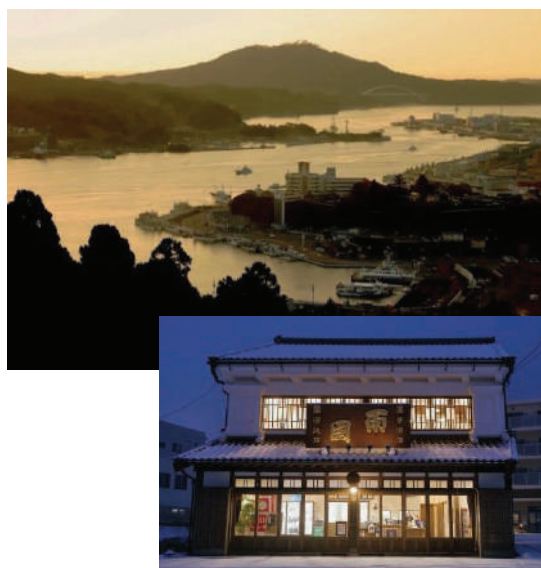
6-6 くびふりべーご



6-7 古館鈴木家住宅



6-8 気仙沼港と風待ちの風景



6-9 気仙沼の打ち囃子



6-10 気仙沼の大漁唄込



6-11 金華山詣 (金華山)



6-12 金華山道 (道碑・一の鳥居・常夜燈)



6-13 大なる入り江サン・アンドレスー大船渡湾の風景ー



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
69	みちのく GOLD 浪漫—黄金の国ジパング、産金はじめりの地をたどる—

(1) 将来像 (ビジョン)

【はじめに】

約4億5千万年前から1億年前までに造られた金鉱脈が、749年(天平21年)に「砂金」として宮城県涌谷町から初出。以来昭和時代に至るまで、宮城県北部と岩手県南部地域＝「みちのく」の地は、あまたある鉱物資源の中、人類共通の価値を持つ「金」に特化し産出してきた誇りある歴史と記憶を有しています。この「みちのく GOLD」の歴史は、時代の変化に左右されず我が国の財政的・文化的側面に大きく寄与してきました。現在、鉱物資源としての「みちのく GOLD」は衰亡しましたが、受け継がれてきた遺産遺構は数多く残されています。

私たちは、1300年にわたる先人の産金の営みを顕彰するとともに、悠久の時を経ても色褪せることのない浪漫に満ち溢れた遺産遺構を磨き上げつづけ活かす意志こそが、域内外を行き交う交流人口・関係人口を拡大させる契機となり得、さらに「みちのく」が「金」のように永劫輝き続けていくために不可分な次代の担い手育成と産業の発展につながるものと確信し、ここに「みちのく GOLD 浪漫」と名付けました。

【「みちのく GOLD」を「日本の金山」、そして「日本の財」へ】

日本遺産認定(令和元年5月)を契機に固く結束した宮城県涌谷町・石巻市(令和4年7月追加認定)・南三陸町、気仙沼市、岩手県陸前高田市・平泉町の6市町は、地域活性化戦略の一つとして日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」を掲げ、10年後の様々な人が行き交う JR 東京駅構内で「日本の金山といえば」という問いに国民の誰もが「みちのく」と答えるよう、今後新たに策定・改定される各市町の「総合計画」等上位計画、「文化財保存活用地域計画」等関連計画との位置付けを促し、次に掲げる地域の魅力づくりを目指します。

1. 《『ビジョン』＝地域の財が日本の財であることの誇りの醸成》: 「みちのく GOLD 浪漫」の旗印の下、日本の財として有形・無形の産金文化財の磨き上げ、交流人口・関係人口増大の礎となるシビックプライドを持った市民を不断に育みます。よって東日本大震災からの完全なる復興を後押しします。
2. 《『ミッション』＝「みちのく GOLD」に纏わる文化財・歴史の持続的な観光資源化》: 長期的視点に立ち「みちのく GOLD 浪漫」のシンボルとしての金山遺跡群とそれに纏わる有形・無形の文化財を市民とともに磨き上げ、認定ストーリーをツールとして活用する黄金観光交流ルート「みちのく GOLD 浪漫」ツーリズムの確立を目指します。
3. 《『バリュー』＝一粒の砂金から人々の豊かな人生創造に貢献》:

- ①興味深さ: “黄金の国ジパング” 人類共通の価値を有する鉱物資源「金」に特化し語れる地「みちのく」。
- ②斬新さ: わが国産金初出の地は「みちのく」にあり。東大寺大仏身金を金で彩ったという歴史的事実。
- ③希少性: 1300年ものわが国産金文化史を語れるのは、ここ「みちのく」のみ。
- ④地域性: ジオの恵み「金」の産出地であり「平泉藤原黄金文化」を育んだ消費地でもある「みちのく」。

サプライズの価値から市民の誇り、文化財研磨、ツーリズム確立、生業創出により人々の豊かな人生に貢献。上記に則り、組織整備・戦略立案・人材育成・観光事業化等7項目により事業を紐づけ推進します。

【チーム “みちのく GOLD”】

みちのくの特異な地質は「金」を生んだだけでなく、時には東日本大震災のような大災害も度々起こしてきました。私たちは、日本遺産認定当初から本計画を、東日本大震災震災からの地域再生の一助とすべく位置付け、チーム “みちのく GOLD”としてまさしく一丸となって取り組んできました。震災から10年以上が経過した今、地域では震災復興から新たなステージに進み「日本遺産を有し活用する魅力ある地域づくり」が求められています。引き続き日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」の旗印のもと、なお一層のチーム力を高めつつ本計画に取り組み続けます。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①ーA：日本遺産を紹介する施設への入込数

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	419,769	439,963	384,748	440,100	462,100	484,100
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成市町紹介施設の入込数の計(実績3ヶ年の平均値を基点として2027年までに110%)					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①ーB：ツアーやコンテンツ等での満足度

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	91.1	87.0	85.0	85.0	85.0	85.0
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産に関連するツアーやコンテンツ参加者の満足度調査(実績を踏まえ85%以上を維持すること)					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②ーA：住民が日本遺産を誇りに思う割合

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	93.9	94.4	60.5	90.0	90.0	90.0
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	イベント等の催事でのアンケート調査(実績を踏まえ90%以上を維持すること)					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産に関連する各種産業を展開する事業者数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	27	45	57	65	75	85
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産に関連する各種産業を展開する事業者数の累計(2027年度までに85社・事業者)					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：「みちのくGOLD」の掘り起こし件数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	2	8	3	3	3	3
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財の公開促進事業および産金関連文化財等の調査実施件数(価値創造重点地域・年2市町をベースに事業実施する件数)					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：日本遺産を活用した取り組み数(協議会による取組を除く)						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	42	84	121	135	150	165
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	民間事業者やボランティア団体、保存会等が実施する日本遺産関連主催事業数(イベント含む)の累計(2027年度までに165件)					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の認知度						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	48.3	49.2	26.6	50.0	50.0	50.0
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	域内外を問わず催事等のアンケート調査で取得した認知度の年平均(50%以上の維持)					

(3) 地域活性化のための取組の概要

(1)に記載した「日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」将来像の実現に向け、これまで6年間の事業をベースに取り組みつつ、実績報告書に記載した課題点が克服できるよう、特に下記の視点をもち取り組みます。

【“地域の活性”に資するための3つの視点】

1. 『日本遺産ブランディング』その推進への貢献：日本遺産とは日本の歴史・文化を象徴する100の物語。「みちのく GOLD 浪漫」は、人類共通の最高価値である鉱物資源『金』にまつわるわが国産金文化を語り伝える点、104の認定案件のなかで極めて特異で唯一性あるテーマであると認識し、国内外「FIT テーマ旅行者」をメインターゲットに『日本遺産ブランディング』の先輪の役目を果たしたいと自覚しています。
2. 『金』の本質的価値とはなにかの追求：6年間の歩みの中で、私たちは『金』の価値を“憧れ”“祈り”“富み”にあると捉え、全てのアクティビティアイデア、コンテンツ創出の基盤に据えてきました。これを追求しつづけ探究するツーリズムを目指します。
3. 「量」ではなく「質」の追求：日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」は、永久運動です。この視野と時間軸をもって中期10年の計そのバックキャストとして今後3年の計画策定を図ります。従前から「みちのく GOLD 浪漫」エリアには平泉町中尊寺(金色堂)以外、域外訪客の憧れの対象となる観光資源ならびに観光産業ともに乏しい現状にあります。よってこれ全て魅力無尽蔵であり、伸び代大であると捉え、テーマの唯一性と『金』の価値(魅力)が刺さる“一人”の訪客とのコミュニケーションを図ります。SNSの時代、それが拠点施設入込数ならびに地域経済の「量」の増大に資すると確信するものです。

【面 → 線 → 点による事業視点】

1. 【面】強化と構成市町別「活用テーマ」の設定：認定ストーリーを構成6市町だけのものではなく「みちのく」を代表するストーリーとして捉え、既存構成文化財はもとより、宮城県北～岩手県南地域一帯に内在する「金」にまつわる文化財の抽出・魅力掘り起こしにも努め【面】の強化を図るとともに、各地域固有の「活用テーマ＝サブストーリー」を設定して、多様なニーズをもつ「FIT テーマ旅行者」に応えます。また、【面】の強化の段階に応じて構成市町の「拡張＝追加認定」を図ります。

「活用テーマ」：涌谷町“日本初の産金の聖地”、石巻市“みちのく山に詣る・金華山詣”、南三陸町“産金地を一望する霊峰”、気仙沼市“日本最大の怪物金”、陸前高田市“金山探掘の栄枯盛衰”“日本最古の金鉱脈”、平泉町“皆金色の理想郷”、予定追加認定大船渡市“世界とつながる黄金探求の歴史物語”。

※「活用テーマ」：認定ストーリーから各構成市町の役割、性格づけ、意味づけ、差別化の趣旨で抽出されたサブストーリーと同義であり、これらテーマに則り活用事業を推進しています。当然、今後参入の市町にも適用していきます。

※「拡張」の例：宮城県石巻市(令和4年度既追加認定)、岩手県大船渡市(令和7年度予追加認定)

2. 【線】周遊移動手段(情報)の整備とロングトレイル構想：当エリアに来訪する「FIT テーマ旅行者」の移動手段の大勢は、レンタカー利用(ハブ仙台空港利用者の80%)とマイカー利用であること、目指す構成文化財である金山遺跡遺構および文化的景観地はほぼ全て各ビジターセンター施設から5km～15kmと遠距離かつトレイルルートとなる現状に

あります。公共交通や二次交通を利用した一般的な「観光」整備を目指すのではなく、むしろ不便さ、歩速、地元の人とのふれあい、自然との出会いを楽しんでもらえる【線】(周遊)の取り組みを提唱します。

2-1 移動手段(情報)の整備: ターゲット「FIT テーマ旅行者」に有用なツールの整備・発信が急務と認識し、多言語・デジタル/アナログ対応かつ認定ストーリー、文化観光拠点施設、飲食店、道の駅、コンビニエンスストア、トイレ、GS等のコンタクトポイント、所要時間等記載の“日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」オフィシャルドライブマップ”の提供を図ります。当該マップは、「みちのく GOLD 浪漫」の世界観をも表象するものです。

2-2 ロングトレイル構想: 「金山遺跡」、坑道、砂金採取に不可欠な水路跡等をめぐる行程はまさしく山ゆえに“トレイルルート”“アドベンチャーツーリズム”として好適であり、かつ文部科学省「三陸ジオパーク」のジオサイトや日本遺産認定を受けた同年令和元年6月に開通した環境省「みちのく潮風トレイル」のオプションルートとして下記フェーズで新規造成を推進します。

第1フェーズ: 各市町個別のルート設定 第2フェーズ: それらルート情報の統合化
またルート開拓とあわせエリアガイド人材の育成も図ります。

- ・既造成: 気仙沼市唐桑半島3ルート、陸前高田市玉山金山跡ルート
- ・踏査中: 南三陸町入谷千軒産金跡ルート、石巻市鮎川金山跡ルート、大船渡市今出山金山跡ルート

3. 【点】文化観光拠点施設ネットワーク構築とギフトの創出: 「日本初の産金の聖地」涌谷町に建つ“天平ろまん館”を下記全21拠点施設の核として聖地化を図るとともに、各施設のPR展示・情報発信の拡充ならびに施設間相互送客のための情報インフラ構築を図ります。

(各拠点情報は、当然上記オフィシャルドライブマップに記載します。)

涌谷町“**天平ろまん館**” → “わくや天平の湯” → 石巻市“石巻市博物館” → “牡鹿半島ビジターセンター” → “島週の宿 さか井” → 南三陸町“南三陸ホテル観洋” → “ハマレ歌津” → 気仙沼市“道の駅大谷海岸” → “大谷鉱山歴史資料館” → “海の市” → “気仙沼プラザホテル” → “鹿折金山資料館” → “唐桑半島ビジターセンター” → 陸前高田市“**霊泉玉乃湯**” → “気仙玉山金山資料館(仮称)” → “陸前高田市立博物館” → “旧吉田家住宅主屋” → 平泉町“中尊寺讚衡蔵” → “平泉文化遺産センター” → 予定大船渡市“大船渡温泉” → “大船渡市立博物館”

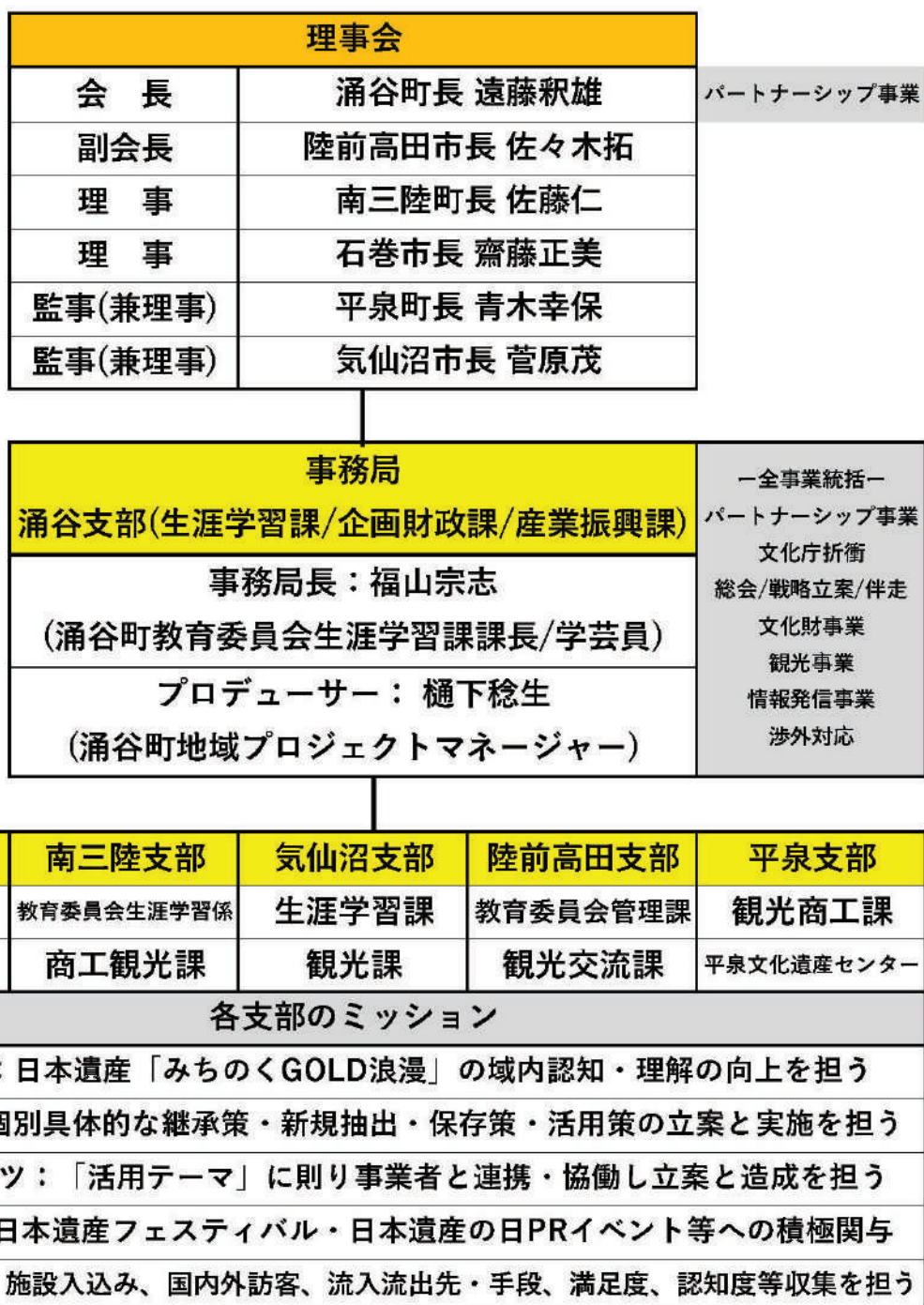
また、ガストロノミーツーリズム、ヘルスツーリズムなどと柔軟に掛け合わせを図り、高品位な「みちのく GOLD 浪漫」ギフトの創出に努めます。

例) 「金山遺跡」トレイルウォーキング → 上記6カ所の温泉施設での充足 → 日本遺産関連商品や「黄金食財」を活用したオリジナルメニューの堪能
涌谷町 “玄米金のいぶき” “黄金御膳” “黄金姫御膳” “黄金レモン(使用したパフェ)” “黄金コーヒー” “日本酒純米大吟醸 稀世(涌谷町黄金大使安野希世乃プロデュース)”, 石巻市 “さば粉入りたれ(日本遺産オリジナルラベル)”, 南三陸町 “キラキラ井”, 気仙沼市 “純米大吟醸 蒼天伝(鹿折金山坑道熟成)” “ふかひれスープ(4種)” “金のさんま”, 陸前高田市 “金山井” “岩姫ゴールド井” “金の花りんとう”, 予定大船渡市 “黄金かもめの玉子” 等

(4) 実施体制

令和6年度実績報告書に記載した推進体制図をベースに、事務局と各支部のミッションを明確化して活動推進すると共に、パートナーシップ制度を導入し事業連携・協力機関との関係強化を図ります。

日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会 体制図



日本遺産「みちのくGOLD浪漫」パートナーシップ

文化財 パートナーシップ	観光事業 パートナーシップ		ガストロノミー事業 パートナーシップ	アート・ギフト事業 パートナーシップ
日本鉱山遺跡研究所 五十公野裕也氏	涌谷町地域振興公社 天平ろまん館	気仙沼市観光 コンベンション協会	AuBless わくやキッチン	花叢
黄金山神社/涌谷神社	まち感動クリエイティブ 天平の湯	気仙沼市観光推進機構	ハンバーグレストラン つきみち	アトリエBOSS&Nonko
涌谷藩志会	涌谷まちづくり推進機構 ゲストハウスあんだあも	Kesennma Tourism Authrity	食事処 すずぎや	かとうまさゆき 写真事務所
涌谷町文化財友の会	遠田商工会	南三陸ハマレ歌津	涌谷園芸ファーム	
南三陸ネイチャー センター友の会	南三陸ホテル観洋	平泉観光レストセンター	焙煎小屋 風舎	
金華山黄金山神社	南三陸町観光協会	アイリス悠	カイタク	
唐桑大漁唄込復活 推進実行委員会	石巻圏観光推進機構	古都平泉ガイドの会	平孝酒造	
崎浜大漁唄込保存会	鮎川まちづくり協会	高田松原	南三陸ワイナリー	
御崎神社	石巻観光協会	Rikuzentakata Concierge	男山本店	
竹駒牧野	島週の宿 さか井	奥州交通	阿部長商店 海の市	
玉山金鉱山	唐桑観光ガイドの会	元気いしのまき	旬味旬彩 鮪 まつ田	
秀衡塗 翁知屋	気仙沼プラザホテル	シードリーム 金華山汽船	東京屋カフェ	
産金遺跡研究会	気仙沼市観光協会 (唐桑支部)	宮城県観光連盟	さいとう製菓	
気仙歴史文化研究会	陸前高田市 観光物産協会	東日本旅客鉄道	神田葡萄園	
黄金の海・ ケセンプロジェクト	霊泉玉乃湯	花園観光	南三陸さんさん商店街	
張子俵牛伝承の会	陸前高田企画	たびむすび	陸前高田ホタテと ワカメ料理推進協議会	
陸前高田古文書研究会	オフィスTOBA	まるく		
鹿折金山資料館 運営委員会	世界遺産平泉・一関 DMO	岩手開発観光		
鮎立大漁唄込保存会	イーハトーブ東北	大船渡温泉		
キャノンマーケティング ジャパン	インアウトバウンド 仙台・松島	あおい商店		

[人材育成・確保の方針]

日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の認定ストーリーが日本の歴史・文化を代表する物語の1つであること、「みちのくGOLD浪漫」が描くビジョン・ミッション・バリューに共感しチームとして活動いただける「**伝導師=キープレイヤー**」が必須と考えます。量の人材育成ではなく、質の「**伝導師=キープレイヤー**」をお一人（一社）ずつ増やします。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

推進協議会が描くビジョンは「ツーリズムを確立し地域にお金を落とすこと」であることから、「限られた原資でコストを抑え、スモールサクセスを着実に積み上げること」、「経済的資源ありきではなく人的資源をこそ活用し事業推進とすべきこと」を方針とし、認定4年目以降の協議会活動原資は、基本的に「構成市町全体で取り組む最低限の事業費のみ」計上することとし均等負担金でまかっています。

ただし、事業目的に合致した国、県等公募補助金メニューは適宜申請、活用させていただきたいと思えます。

申請当初 DMO 設立を持って自立を目指すと謳いましたが、既に観光産業組織があり事業展開をされている地域もあることから、カニバリズムを排し各組織間の橋渡しを主な役割とし、下記2体制併存の道を選択し取り組んでいます。

【役割：ストラテジーの構築】

→ 構成6市町で組成する『日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」推進協議会』

観光ビジョン・事業計画の策定、構成文化財の拡張・保存・活用施策の策定、「みちのく GOLD 浪漫」価値向上施策の策定、プロモーションイベント出展・参画等をミッションとします。

【役割：プロフィットの創出】

→ 地域企業・団体で構成する『日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」パートナーシップ』

推進協議会の策定方針とベクトルを合わせ、協調・共感により事業アイデアと提供サービスを生み出し、地域経済の活性化に注力します。

I. 文化財パートナーシップ II. 観光事業パートナーシップ III. ガストロノミー事業パートナーシップ IV. アート・ギフト事業パートナーシップ、4カテゴリーに分類し各事業フィールドでの展開を期するものです。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」のストーリーを裏付けし、意味付けし、そして価値(魅力)付ける構成文化財は現在44件です。下記【拡張】【継承】【保存】【活用】により取り組めます。

【拡張】「みちのく GOLD 浪漫」の価値(魅力)増大のため、岩手県指定「旧吉田家住宅主屋」の復旧完了に代表される構成文化財の追加認定を不断に目指します。

【継承】プロデューサー自らが気仙沼市指定無形民俗文化財「気仙沼の大漁唄込」の保存会員となり、地元小学校総合学習で指導するなど継承に不断に努めます。

【保存】構成文化財には震災による被災資料、公開に対して脆弱な資料が含まれていることから復旧事業やレプリカ作成が進められています。博物館施設等での展示会を活用しつつ、保存と活用を図ります。

【活用】文化財類型によって活用施策は異なりますが、涌谷町に例をとると「文化財友の会」「涌谷藩志会」等民間有志による産金文化を含む文化財に係る活動を積極展開しており、他市町においても文化財保護委員会、郷土史会等を中心にワークショップ、歴史学講座等において構成文化財を地域の宝として活用しています。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	ワンチーム「みちのくGOLD」チーム力向上 事業		
概要	これまでの取り組みをブラッシュアップし、取組の概要に記述した「面」の強化、実施体制で記述した「パートナーシップ制度の導入」に取り組み、ワンチーム「みちのくGOLD」のチーム力向上を図ります。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産『みちのくGOLD 浪漫』パートナーシップ制度の導入	認定以降6年間の経験値から、「推進協議会」は構成自治体で構成し文化財活用の基盤づくりに専念し、果実として地域経済循環の利得は『パートナー』が享受する制度設計を推進します。従前からの事業連携・協力機関（個人・企業・団体に限らず『キープレイヤー』）を右記4カテゴリー（事業目的・期待する役割）で整理し関係強化を計るとともに、新規参入プロモーションを同様の理念で展開します。	<p>I. 文化財パートナーシップ：地質系・鉱物系研究者（団体）、文化財各類型に通暁している有識者（団体）、郷土史家（団体）、無形民俗文化財保存活動家（団体）、所有者等</p> <p>II. 観光事業パートナーシップ：「みちのくGOLD 浪漫」の価値と観光資源に共感する宿泊業、旅行業</p> <p>III. ガストロノミー事業パートナーシップ：「黄金食財」の生産者、提供者</p> <p>IV. アート・ギフト事業パートナーシップ：アート作家、日本遺産関連商品制作事業者</p>
②	ワーキンググループの積極的活用	上記パートナーを含めた関係者間で事業毎に『ワーキンググループ』を組織し、円滑な事業立案～運営を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進協議会 ・ パートナーシップ事業者
③	地域の面強化（旧仙台藩領産金文化：包蔵市町ネットワーク拡張）	わが国屈指の埋蔵量を誇る金鉱脈が形成された、岩手県南部から宮城県北部地域（旧仙台藩領）。この広域内には200ヶ所以上とも伝えられる金山遺跡群の観光資源活用のため、現構成6市町連携事業展開に加え宮城県北～岩手県南域での面強化に取り組めます。また右記3つのフェーズ（段階）で『拡張』を図っていきます。	<p>I. 情報連携フェーズ 地域内で文化財の魅力深化を図りつつ情報共有や連携の可能性を探ります。</p> <p>II. 事業連携フェーズ パートナー連携した事業者等とワーキンググループを組織し、個別案件の事業展開を図ります。</p> <p>III. シリアルフェーズ 官民総意のもとで構成市町の追加を目指します。</p>

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	日本遺産を活用した取り組み数	42
2023		84
2024		121
2025		135
2026		150
2027		165
年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	ワーキンググループの組織数	4
2023		8
2024		5
2025		8
2026		8
2027		10
事業費	2025 年度：30 千円 2026 年度：30 千円 2027 年度：30 千円	
継続に向けた 事業設計	官民間わず、須く「みちのく GOLD 浪漫」事業への関心喚起し、共感する『 キープレイヤー=共汗者（ともに汗を掻く人財） 』の地道な発掘を精力的に努めます	

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名		「砂に黄金 泥に蓮」 ^{いさご こがね でい はちす} 作戦 事業	
概要		私たちの取り組みは、「砂に黄金 泥に蓮」の喩えの如く、しっかりと価値ある魅力を掘り起こし、地域の活性に繋げなくてはなりません。「みちのくGOLD浪漫」が描く《ビジョン》《ミッション》《バリュー》をすべてのステークホルダーが共有し、各々の役割を自分ゴトとしながら、毎年度方針を立てて事業を立案、推進します。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	《ビジョン》 《ミッション》 《バリュー》の共有	将来像（ビジョン）実現に向けて活動に取り組むとともに、構成市町で組織する支部が取り組むべきミッションを明確化し、取り組めます。	・ 推進協議会各支部 ・ パートナーシップ各事業者
②	指標確認と方針・シンボル事業の策定	年度終了時に計画指標値の確認を行いながら次年度事業の方針を策定した上で、注力すべき『シンボル事業』の立案を図ります。	・ 推進協議会事務局
③	『価値創造重点地域』の設定	令和5年度以降、「面」の魅力確立のため、「個＝各市町」の強化を目指した『価値創造重点地域』を毎年度2市町で持ち回り設定しました。各市町のコンディションにも柔軟にあわせつつ、『価値創造重点地域』を中心に事業を展開します。	2025年度 平泉町・陸前高田市 2026年度 石巻市・涌谷町 2027年度 南三陸町・気仙沼市
④	ロゴマーク活用の推進	「みちのくGOLD浪漫」の認知度向上、ブランディングを図るため、ロゴマークの活用を推進し、日本遺産および認定ストーリーの普及に努めます。	・ 推進協議会各支部 ・ パートナーシップ各事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産との関係を明確にした行政計画の累計数		6
2023			9
2024			10
2025			10
2026			13
2027			15
事業費	2025年度：5千円 2026年度：5千円 2027年度：5千円		
継続に向けた事業設計	2024年度までの取り組みを継続し、中長期的な将来像（ビジョン）の実現を図ります。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名		「みちのく GOLD 浪漫」伝導者の拡大 事業	
概要		<p>コロナ禍をはさむこの 6 年間の取り組みで 7 名のガイド人材(認定ガイド)が延べ 162 回の活動、57 社の産業界人材を中心に商品・サービスの開発や日本遺産の取組に関連・協力いただけてきました。この熱量を下げることなく、新たな人材を伝導者として巻き込んでいきます。また既存の伝導者はパートナーシップ制度やワーキンググループ(WG)を活用し、ネットワーク化を図ります。</p>	
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域プロデュースの基盤強化	<p>官民だけでなく様々な人材をつなぐ『地域プロデューサー』の役割は地域活性化計画推進の要となるものです。役割を担う後継、もしくは役割を引き継いでいける組織の立ち上げを図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進協議会事務局
②	伝導者の拡充	<p>ガイド人材として文化財ガイドやトレイル+文化財ガイドの拡充を図ります。 また継続して産業界人材の拡充も図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進協議会各支部 ・ 地域圏人材
③	伝導者ネットワークの構築	<p>既存伝導者を中心に伝導者間で情報や課題が共有できるネットワークを構築し、「日本遺産×自然体験プログラム」「日本遺産×ヘルスツーリズム」「日本遺産×ガストロノミーツーリズム」等の構築の基盤とします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進協議会各支部 ・ 関係伝導者 <p>三陸復興国立公園をフィールドに自然体験プログラムを行っている南三陸町「おきなくら EELs」との協働等</p>
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	研修を受けたガイド人材数		19
2023			17
2024			9
2025	文化財ガイド、トレイル+文化財ガイド研修		20
2026	文化財ガイド、トレイル+文化財ガイド研修		20
2027	文化財ガイド、トレイル+文化財ガイド研修		20
事業費	2025 年度：150 千円 2026 年度：150 千円 2027 年度：150 千円		
継続に向けた事業設計	<p>当地域のガイド人材等は既にガイド組織に属している人も多いため、日本遺産のストーリーの魅力や取り組みを伝導する人材として研修します。(有償ガイド向け研修)</p>		

(7) - 4 整備

(事業番号 4 - A)

事業名		「みちのく GOLD」構成文化財等掘り起こし 事業	
概要		令和2年度以降、構成文化財の魅力掘り起こしやサブストーリー創出を目的に域内での調査を例年継続実施している。(河川砂金採取調査、陸前高田市金鉱山歴史研究、南三陸町産金遺構調査等)調査は、『ワーキンググループ(WG)』で実施し、調査に当たっては文化財だけでなく、データの調査後の活用、トレイルルート造成など観光事業化の視点も取り入れることとしている。令和5年度以降は、地質・鉱山研究者や地域の団体等が主体となり掘り起こしする事例が出てきており、協働して価値の掘り起こしに努める。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成文化財等詳細調査事業	令和6年度より南三陸町入谷地区で産金遺構を活用したトレイルルート造成に着手している。将来的には構成文化財や文化財指定を図る方針。気仙沼市本吉地区や一関市花泉地区でも同様の動きが出てきており、各界研究者や郷土史家の意見も交えながら各地で横展開を図っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会文化財WG ・ガイド×トレイル人材 ・研究者等
②	地域別テーマの活用【点】の強化	金を育んだ大地(ジオ)との関係性や、採金事業後の地域社会の変化を捉え、各地域固有の活用テーマとして抽出し、サブストーリーとして積極的に図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会各支部 ・地域圏人材
③	構成文化財を中心とする関連文化財の公開推進	脆弱な文化財資料の保存を図りつつ、公開活用を推進するため、デジタル化やレプリカ作成等、活用手段を講じます。	<ul style="list-style-type: none"> ・構成文化財所有者/管理者 ・推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	「みちのく GOLD」の掘り起こし件数		2
2023			8
2024			3
2025			3
2026			3
2027			3
事業費		2025年度：200千円 2026年度：200千円 2027年度：200千円	
継続に向けた事業設計		構成文化財等調査は、その目的や内容によって複数年事業として取り組む必要があります。地域に年度毎の調査成果を報告、還元、公表しつつ推進します。	

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	黄金観光交流ルート「みちのく GOLD 浪漫」ツーリズム構築 事業		
概要	<p>ターゲット「FIT テーマ旅行者」誘引のため、広大なエリアゆえに山あてとなるハード設定が肝要です。活用テーマ「日本初の産金の聖地」を掲げる涌谷町の国史跡黄金山産金遺跡に建つ“天平ろまん館”。同館をエリア内文化観光拠点施設 21 館のコア施設と位置づけ、ならびに館内で体験できる「砂金採り」を「みちのく GOLD 浪漫」体験コンテンツの支柱として据え、同館の『聖地化』を推進します。2024 年「砂金採り体験場」来場者数は初の 10,000 人超を達成し昨今の「金」ブームを表しています。このコア施設が有する機能とエリア内文化観光拠点施設の価値（魅力）とをターゲットニーズに応えるため掛け合わせ、提供サービスの拡充を図ります。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ツーリズムコンテンツ構築事業（【点】の構築）	<p>知学×体験×食事×土産の機能を合わせ持つコア施設「天平ろまん館」。同館聖地化のため「砂金採り」の『スポーツ化プログラム』を開発するとともに、日本遺産×トレイル・日本遺産×ガストロノミーの視点からパートナーシップ事業者や伝導者ネットワークでアイデアを創出し、新たなコンテンツを造成する「場」としての機能を強化します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会/文化財WG ・パートナーシップ事業者 ・ガイド人材等の伝導者
②	文化観光拠点施設のネットワーク構築（【点】の強化）	<p>各市町の文化観光拠点施設の情報共有を図り、施設間相互送客のための情報インフラの構築を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会 ・各拠点施設
③	周遊環境の整備（【線】の構築）	<p>ドライブを主体とした周遊環境の構築のため、オフィシャルドライブマップ制作や定期的なスタンプラリーにより、周遊環境を整備します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会 ・パートナーシップ事業者
④	テーマ旅行の構築（【面】基盤整備）	<p>地域別「活用テーマ」に基づいたロングトレイル構想、日本遺産×トレイル、ガストロノミーツーリズムの視点から、面としてのモデルコースを設定し、商材資料とします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会 ・パートナーシップ事業者 ・ガイド人材等の伝導者
⑤	セールスプロモーション活動	<p>ツーリズム EXPO ジャパン日本遺産ブースをはじめ機会あるイベント等でプロモーション活動を展開します。また既知の旅行事業者へ情報提供しツアー立案に向けての商談活動を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会 ・旅行事業者
⑥	ツアー企画～催行までのアテンド活動	<p>ツアー立案や催行にあたり、旅行事業者と関係コンテンツ事業者とのマッチングを図り、下見・準備、本番当日現地ガイド（学芸員による）対応をこなし、顧客満足度と外部評価の向上に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会 ・旅行事業者 ・パートナーシップ事業者

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	日本遺産関連で開発された商品・サービス数	36
2023		56
2024		74
2025		85
2026		95
2027		100
事業費	2025年度：1,000千円 2026年度：1,000千円 2027年度：1,000千円	
継続に向けた事業設計	【点】【線】【面】を意識した事業方針とし、組織整備や人材育成の事業内容と組み合わせ1つ1つ丁寧に実施します。	

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	「みちのく GOLD 浪漫」普及啓発 事業		
概要	日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」の事業目的はツーリズムを確立し、地域に来て体験いただく、お金を地域に落としてもらうことを目的としています。このため普及啓発事業は、域内や圏域では「シビックプライドの育生」を、圏域外となる国内外全般に向けては「認知度向上と顧客満足度向上」を目的として取り組みます。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	シビックプライドを確立する取り組み(1)	年度別設定する『 価値創造重点地域 』を会場に、構成文化財等調査の成果や日本遺産活用について考えるシンポジウムを開催すると共に、構成市町で開催する講座や勉強会、郷土史研究会、博物館での企画展等に日本遺産関連の内容を組み込み、ストーリーや活用について積極的に普及啓発します。また、市民参加型事業「きんぼす」や「Instagramコンテスト」等を開催し、地域の日本遺産に興味関心喚起のための取り組みを継続展開します。	・ 推進協議会 各支部
②	シビックプライドを確立する取り組み(2)	圏域内の小中学校、高等学校や大学の児童～学生が、ストーリーや地域活性化について学ぶ際の講師派遣や、展示施設における体験学習指導を行います。また、域内で開催されるイベント等において簡易体験コーナーや砂金採り体験を出展し、文化観光拠点施設への誘引を図ります。	・ 推進協議会 各支部
③	認知度向上のための取り組み(1)	「日本遺産」や「みちのく GOLD」という言葉が当地域を代表するキーワードとなるよう、日本遺産フェスティバルや日本遺産の日関連イベントはもちろん、ゴールドフェスタ（民間）等に精力的に出展し、簡易体験等を通じて普及啓発を図ります。	・ 推進協議会 各支部
④	認知度向上のための取り組み(2)	涌谷町天平ろまん館等で行われている「砂金採り大会」等の既存事業を、日本遺産大会や全国大会等の冠を付した事業へとアップグレードを図り、ストーリー体験を兼ねたシンボル事業の創出を検討します。	・ 推進協議会各支部 ・ パートナーシップ事業者
⑤	自主事業の促進と協力	地域からの発信・普及啓発のための官民自主事業（研修等）に共催や後援など様々な形で協力・連携し、日本遺産およびストーリー理解の促進を図ります。	・ 市民（団体） ・ パートナーシップ事業者等

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	日本遺産の認知度	48.3
2023		49.2
2024		26.6
2025		50.0
2026		50.0
2027		50.0
年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	住民が日本遺産を誇りに思う割合	93.9
2023		94.4
2024		60.5
2025		90.0
2026		90.0
2027		90.0
年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	学習や体験をした児童、生徒等の数	555
2023		851
2024		1,145
2025		1,500
2026		1,500
2027		1,500
事業費	2025年度：300千円 2026年度：300千円 2027年度：300千円	
継続に向けた事業設計	情報発信や観光事業化の事業と組み合わせ、ターゲット層(イベントであればイベント参加者層)に合わせた形で何度も継続的に普及啓発していきます。	

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名		「みちのく GOLD」キーワード化促進 事業	
概要		普及啓発事業や観光化事業を促進しても、『日本遺産』や『みちのく GOLD』という言葉が当地域を代表する【キーワード】として普遍的な存在にならない限り成功しません。まずはキーワードを周知させる取り組みを中心に情報発信事業を展開します。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	情報発信環境の維持・更新	<p>基幹となる日本遺産ポータルサイトや当推進協議会の多言語サイトを維持管理し、ストーリーや観光への魅力を発信するベースとします。</p> <p>〈旅マエメディア〉として既存 SNS (Facebook、Instagram) では、イベント情報等を常に発信することとし、関心喚起と観光誘引を図ります。</p> <p>〈旅ナカメディア〉として紙媒体であるコンセプトブック、パンフレットを年度数量に合わせ増刷します。</p> <p>またポスターやチラシ等セールスプロモーションツールは適宜、適時制作します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会事務局/各支部
②	キーワードの普遍化	<p>「日本遺産」「みちのく GOLD」の【キーワード】を普遍的なものとするため、構成市町やパートナーシップ事業者に対しロゴマークの使用・活用を促すとともに、推進協議会事務局・各支部においてはノベルティやスタッフジャンパーを活用し、【キーワード】の普遍化を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会事務局/各支部 ・パートナーシップ事業者
③	メディアや関連事業者と連携した情報発信	<p>Youtuber やメディアのコンテンツ制作者等インフルエンサーに対しボーダーレスにかつ柔軟に情報提供し、公式サイトだけに頼らない情報発信を目指します。</p> <p>「金」に対し高い関心を寄せる NHK、宮城・岩手ローカル局等放送メディアならびに地方新聞社との良好な関係維持と情報提供に努めます。</p> <p>また米国をはじめとする金と親和性の高い国外に向けても積極的にストーリーの魅力を発信します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会事務局 ・メディア関連事業者
④	コンテンツ制作	<p>オフィシャルドライブマップ、構成文化財の紹介、地域別テーマの魅力紹介、まんが読本の更新など、コストを検討しながら、デジタルもしくはアナログ紙媒体等を通じて制作・公開し、認知向上やストーリーの理解促進につなげます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会事務局/各支部 ・パートナーシップ事業者

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	日本遺産「みちのく GOLD 浪漫」について掲載したウェブサイトや動画共有サイトでの再生回数(累計)	131,638
2023		846,764
2024		2,824,899
2025		3,000,000
2026		3,500,000
2027		4,000,000
年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	公式サイト(日本遺産ポータル、多言語サイト、Youtube、Facebook など)の更新・アップロード数	82
2023		95
2024		69
2025		100
2026		100
2027		100
事業費	2025 年度 : 500 千円 2026 年度 : 500 千円 2027 年度 : 500 千円	
継続に向けた事業設計	コストを意識しながら、効果的な情報発信に取り組みます。	